

實業補習學校

一八〇

(細)第十二條 實業補習學校ニハ屋外體操場ヲ設クヘシ

(細)第十三條 實業補習學校ノ校舍ニハ左ノ諸室ヲ設クヘシ但シ第二號及第四號乃至第九號ノ室ハ當分之缺クコトヲ得

一 普通教室

二 特別教室

裁縫教室理科教室家事教室

三 教員室

四 器具器械標本室

五 講堂

六 生徒控所

七 宿直室

八 小使室

九 湯沸室

(細)第十四條 實業補習學校ノ校舍ノ建築又ハ模様替ニ關シテハ小學校令施行規則實施細則第十五條及第十七條乃至第二十一條ノ規定ヲ準用ス

(細)第十五條 實業補習學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備付クヘシ

一 學校一覽表

二 學校沿革誌

三 學校日誌

四 學校醫執務日誌

五 備品原簿

六 證書授與原簿

七 教授時間表

八 教授細目表

九 文書受發簿

十 公文書綴

十一 學事例規綴

十二 學籍簿(別記樣式第二號)

十三 生徒出席簿

十四 生徒身體檢查統計表

實業補習學校規程

一八一

實業補習學校

一八二

- 十五 生徒成績調査簿
- 十六 生徒賞罰簿
- 十七 教員出勤簿
- 十八 教員名簿
- 十九 教員履歷書綴
- 二十 巡視簿

廿一 其ノ他特ニ必要ナル諸表簿

第十九條 實業補習學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限ニ關スル事項
- 三 學科目及其ノ程度ニ關スル事項
- 四 教授時數ニ關スル事項
- 五 教授ノ時刻及季節ニ關スル事項
- 六 休業日ニ關スル事項
- 七 入學退學等ニ關スル事項

八 授業料等ニ關スル事項

第二十條 道府縣立ニアラサル實業補習學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並教授時數ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

(細)第三十一條 實業補習學校ニ商議員若干名ヲ置ク

商議員ハ管理者又ハ學校長ノ諮問ニ應シ實業補習學校ノ經營ニ關シ意見ヲ開申ス

(細)第三十二條 商議員ハ管理者ノ申請ニ依リ知事之ヲ囑託ス

(細)第三十三條 管理者又ハ設立者ハ左ノ事項ヲ調査シ毎年五月三十一日迄ニ知事ニ之ヲ報告スヘシ

一 實業補習學校當該年度經費豫算調(別記様式第五號)

二 實業補習學校前年度教員俸給支出額調(別記様式第六號)

三 實業補習學校教員數調(別記様式第七號)

市町村長ハ別記様式第八號ニ依リ前項第一號ニ掲クルモノヲ除クノ外實業補習教育ニ關スル經費豫算ヲ調査シ毎年五月三十一日迄ニ知事ニ之ヲ報告スヘシ

(細)第三十四條 管理者又ハ設立者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度遲滯ナク知事ニ之ヲ報告スヘシ

實業補習學校規程

一八三

實業補習學校

- 一 開校シタルトキ
 - 二 校舍竣工シタルトキ
 - 三 非常災害ノ爲校舍損壞シタルトキ
 - 四 學校長其ノ他職員死亡シタルトキ
 - 五 私立學校ニ在リテハ學校長又ハ教員ヲ採用シ若ハ之ヲ解職シタルトキ
- (細)第三十六條 實業補習學校ノ管理者又ハ設立者縣ヨリ實業補習教育ニ關シ經費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ毎年四月三十日迄ニ別記様式第十一號及第十二號ニ依ル調書ヲ添付シ知事ニ之ヲ申請スヘシ

(細)第三十七條 實業補習學校ニ關シ知事ノ權限ニ屬スル左ノ事項ハ市長ヲシテ之ヲ行ハシム

- 一 學校長其ノ他職員ノ赴任届ニ關スル事項
- 二 學校長ノ忌引並除服出仕ニ關スル事項
- 三 學校長ノ縣内出張又ハ縣内私事旅行ニ關スル事項
- 四 學校長其ノ他職員ノ旅費減額支給ニ關スル事項

(細)第三十八條 職員ヨリ知事ニ提出スル文書ハ學校長ヲ經由スヘシ
 學校長ヨリ知事ニ提出シ若ハ進達スル文書ハ市ニ在リテハ市長ヲ經由スヘシ

(細)様式第一號

修了證書

校印

氏名

生年月日

實業補習學校前期ノ課程ヲ修了セシコトヲ
 證ス

年 月 日

岡山縣……………郡(市)……………學校長 副

第 號

(細)様式第二號(用紙美濃紙大)

實業補習學校規程

實業補習學校

一八八

備考	學		
	修了年月日		
	大正	大正	大正
	年	年	年
	月	月	月
	日	日後	日前
	修了	修了	修了

備考

一 就學欄ハ當該實業補習學校ニ於テ之ヲ記載スルコト
 (細)様式第四號(用紙半紙大)

市、郡、町(村) 實業補習學校就學狀況調 (五月一日現在)

事項	本年度始メテ就學スヘキ者		前年度以前ニ於テ就學スヘキ者		備考
	男	女	男	女	
現在就學者					
不就學者					

備考	計	就學歩合	其ノ他ノ學校入學者

備考

一 就學歩合ハ實業補習教育學齡ニ在ル者ヨリ其他ノ學校入學者ヲ除キタル數ニ對スル就學者ノ歩合トス
 (細)様式第五號(用紙半紙大)

市、郡(市)、實業補習學校當該年度經費豫算調 (五月一日現在)

備考	事項	經常			臨時		
		專任教員	兼任教員	其ノ他ノ諸費	臨時費	通計	

實業補習學校規程

一八九

實業補習學校

備考

一 種別欄ニハ市立、町村立、町村組合立、市町村學校組合立、町村學校組合立及私立ノ別ヲ記載スルコト
 (細)様式第六號(用紙半紙大)

、郡(市)、實業補習學校前年度教員俸給支出額調

種別	事項		通計
	校	専任教員俸給手當支給額	
	校長	専任教員俸給手當支給額	
	助教	専任教員俸給手當支給額	
	論議ノ教員	専任教員俸給手當支給額	
	計	専任教員俸給手當支給額	
	校長	兼任教員俸給手當支給額	
	助教	兼任教員俸給手當支給額	
	論議ノ教員	兼任教員俸給手當支給額	
	計	兼任教員俸給手當支給額	
			通計

備考

一 種別ハ様式第五號ノ例ニ依リ之ヲ記載スルコト
 二 圖未滿ハ四捨五入法ニ依リ圖位ニ止ムルコト

(細)様式第七號(用紙半紙大)

、郡(市)、實業補習學校教員數調 (五月一日現在)

種別	事項		通計
	校	専任教員數	
	校長	専任教員數	
	助教	専任教員數	
	論議ノ教員	専任教員數	
	計	専任教員數	
	校長	兼任教員數	
	助教	兼任教員數	
	論議ノ教員	兼任教員數	
	計	兼任教員數	
			通計

備考

一 種別ハ様式第五號ノ例ニ依リ之ヲ記載スルコト

(細)様式第八號(用紙半紙大)

、郡(市)、町(村) 實業補習教育ニ關スル當該年度經費豫算調 (五月一日現在)

種別	目		計
	市(町)	私立學校	
	實業補習學校教員講習費		
	其ノ他實業補習教育費		
			計

實業補習學校規程

實業補習學校

備考

備考

- 一 實業補習學校費ハ之ヲ計上セサルコト
- 二 其ノ他ノ實業補習教育費ノ内容ニツキテハ備考欄ニ之ヲ記載スルコト

(細)様式第九號(用紙半紙大)

、郡(市)、實業補習學校生徒出席調

課程	學年	期				授業日數	在籍生徒數	出席總數	日々出席平均數	在籍ニ對スル日々出席平均歩合	缺席總數	日々缺席平均數	全月生徒數
		男	女	男	女								
合計													
合計		女	男	女	男								

(細)様式第十號(用紙半紙大)

、郡(市)、實業補習學校職員勤務調

出席總數	出勤日數	出張日數	廢休日數	休暇日數	忌引日數	病氣缺勤日數	事故缺勤日數	遲刻度數	早引度數	職名	名氏	名備考

備考

- 一 出席總日數ハ其ノ學期若ハ學年間ニ於ケル授業日及學式日等出勤スヘキ總日數ヲ記載スルコト
- 二 事故缺席又ハ遲刻早引ハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スルコト
- 三 日曜祭日又ハ休暇ノ場合宿直當直シタルモノハ廢休トセサルコト

(細)様式第十一號(用紙半紙大)

、郡(市)、實業補習學校狀況調

種別	男女別	生徒數	修業年限	一ケ年教授日數	一ケ年教授時數	日々出席平均數	在籍ニ對スル日々出席平均歩合
男							

實業補習學校規程

實業補習學校

一九四

備考	計	
	計	女

備考

- 一 種別ハ様式第五號ノ例ニ依リ之ヲ記載スルコト
 - 二 前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一ケ年間ニツキ之ヲ記載スルコト
- (細)様式第十二號(用紙半紙大)

、郡(市)、、實業補習學校教員調

氏名	職名	資格	専任兼任ノ別	俸給手當月額	前年度支給シタル俸給手當年額	任用増俸年月日	加俸	補助區別	備考

備考

- 一 前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一ケ年間ニツキ記載スルコト

二 補助區別欄ニハ左記ニ依リ甲乙丙ノ別ヲ記載スルコト

甲 當該年度ニ新ニ置キ若ハ増員シタル専任ノ學校長教諭又ハ助教諭

乙 甲號以外ノ専任ノ學校長教諭又ハ助教諭

丙 甲號乙號以外ノ學校長及教員

三 備考欄ニハ轉退職ニツキ其ノ年月日轉任先等ヲ記載スルコト

○實業補習學校一覽表ニ關スル件 教第一八三〇號學務部長通牒(昭二、五)

實業補習學校一覽表別紙様式ニ依リ毎年五月二十日限り提出相成度此段及通牒候

追テ本年ニ限り六月十日迄ニ提出相成度

(別紙様式省畧)

實業補習學校一覽表ニ關スル件

一九五

第六編 青年訓練所

○青年訓練所令 勅令七〇(大五、四)

條文ニ(規)ノ字ヲ冠シタルハ青年訓練所規程(文部省令)ニシテ(細)ノ字ヲ冠シタルハ青年訓練所規程施行細則(縣告示)ナリ

第一條 青年訓練所ハ青年ノ心身ヲ鍛練シテ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス

第二條 青年訓練所ニ於テ訓練ヲ受クルコトヲ得ル者ハ概ネ十六歳ヨリ二十歳迄ノ男子トス

(規)第一條 青年訓練所ノ訓練期間ハ四年トス

(規)第二條 青年訓練所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ其ノ年三月三十一日ニ於テ十六歳以上十七歳未滿ノ者トス但シ特別ノ事情アル者ハ十七歳以上ニシテ入所スルコトヲ得

第三條 青年訓練所ノ入所期ハ毎年四月トス但シ特別ノ事情アル者ハ中途之ヲ入所セシムルコトヲ得

(細)第十四條 青年訓練所ノ訓練期間ハ之ヲ四年次ニ分チ毎年次ノ訓練ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

(細)第一條 市町村長ハ毎年三月三十一日ニ於テ年齢十六歳以上十七歳未滿トナルヘキ男子ヲ調査シ三月十日迄ニ別表第一號様式ニ依リ之ヲ青年訓練所主事ニ通知スヘシ

義務教育終了者
又ハ同未終了者
ヲ入所セシムル
モ差支ナシ

(細)第二條 市町村長ハ入所年齢ニ該當スル者ノ入所スヘキ青年訓練所及入所期日ヲ決定シ毎年三月十日迄ニ保護者又ハ傭主ニ通知スヘシ

(細)第四條 中途入所志望者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ主事ノ認定ニ依リ之ヲ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得

- 一 病氣ノ爲入所ノ遅延セルモノ
- 一 其ノ居住ノ場所ヲ移轉シタルモノ
- 一 學校ヲ半途退學シ又ハ卒業シタルモノ
- 一 其ノ他已ムヲ得サル事情アルモノ

(細)第五條 前條ノ規定ニ依リ入所セルモノノ訓練ハ青年訓練所規程(以下單ニ規程ト稱ス)第一條ノ規程ニ拘ラス年齢二十一歳ニ至ル迄トス

第三條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得

(規)第六條 市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ区域内ニ於テ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者概ネ其ノ区域内ノ公立實業補習學校ニ在學シ且地方長官ニ於テ當該實業補習學校ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムル場合ハ當該實業補習學校ヲ以テ青年訓練所ニ充ツルコトヲ得

(細)第九條 規程第六條ノ規定ニ依リ知事ノ認定ヲ受ケムトスル公立實業補習學校ハ概ネ十六歳以

青年訓練所令

上二十歳迄ノ男子ヲ收容シ其ノ授業期間四年ニ亘ルモノニ限ル

(細)第十條 規程第六條ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケムトスルトキハ管理者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

- 一 學校ノ名稱
- 二 青年訓練所名稱
- 三 學 則

四 訓練ヲ受クヘキ青年ノ概數

五 右青年中當該學校ニ在學セル者ノ數

六 經費及維持ノ方法

(細)第十一條 規程第六條ノ規定ニ依リ認定ヲ受ケタル實業補習學校ハ青年訓練所ニ充テラレタル旨ヲ適當ニ標示シ且青年訓練名簿ヲ備付ケ生徒ニハ青年訓練手帳ヲ所持セシメ其ノ修了者ニハ別表第四號様式ニ依ル證明書ヲ交付スヘシ

(規)第九條 公立青年訓練所ハ當該市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ區域内ニ居住スル者ヲ入所セシムルヲ常例トス

(規)第十條 公立青年訓練所ハ實業補習學校又ハ小學校ニ併置スルヲ常例トス

第四條 私人ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得

(規)第十二條 私人ハ工場、鑛山、商店等ニ於テ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者ヲ多數ニ使備スル

場合ニ限り青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得

第五條 青年訓練所ノ訓練項目ハ修身及公民科、教練、普通學科、職業科トス

普通學科及職業科ノ科目ハ文部大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル者ニハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ訓練項目ノ一部ヲ課セサルコトヲ得

(規)第四條 青年訓練所ノ訓練項目中普通學科並職業學科ノ科目及其ノ程度ハ高等小學校ノ程度ヲ

基準トシ地方ノ情況ニ應シ實際生活ニ適切ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ授クルモノトス

(規)第五條 青年訓練所ノ訓練時數ハ四年ヲ通シテ修身及公民科百時、教練四百時、普通學科二百

時、職業科百時ヲ下ラサルモノトス

(規)第十一條 青年訓練所ノ訓練ハ土地ノ情況ニ應シ適當ナル季節ヲ選ヒテ之ヲ行フコトヲ得

(細)第十五條 一年ノ訓練時數ハ左ノ標準ニ依リ土地ノ情況學科ニ應シ之ヲ定ムヘシ

- 一 修身科及公民科 二十五時以上
- 一 教 練 百時以上
- 一 普通學科 五十時以上

青年訓練所令

青年訓練所

一 職業科

二十五時以上

1100

(細)第十六條 前條ニ規定スル各科目ハ教練ヲ除クノ外適宜ニ分合シテ之ヲ授クルコトヲ得

(細)第十七條 各科目ハ青年訓練ノ本旨ニ違ヒ相互聯絡ヲ密ニシ土地ノ情況ニ應シ實際生活ニ適切ナル事項ヲ選ヒ之ヲ授クヘシ

(細)第十九條 青年訓練所ノ訓練ハ晝間ニ之ヲ行フモノトス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ夜間ニ之ヲ行フコトヲ得

(細)第二十條 訓練期間ハ通年制トスヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ季節制トナスコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ一時ニ教授事項ノ全部ヲ課スルコトヲ得ス

(細)第二十二條 青年訓練所ニ入所セル者ハ訓育上特ニ注意ヲ要スル時期ニアルヲ以テ深ク生徒ノ訓育ニ留意シ徳性ノ涵養ニ力ヲ致シ之カ實踐上適切ナル指導ヲ爲スヘシ

(規)第七條 現ニ學校ニ在學スル者若ハ相當ノ學力アリト認メラレタル者又ハ特別ノ事由アル者ニ對シテハ一部ノ訓練項目ヲ課セサルコトヲ得

(細)第二十一條 現ニ學校ニ在學シ且青年訓練所ニ入所シタル者ニ對シテハ其ノ學校ニ於テ受クル科目カ青年訓練所ノ訓練項目ノ課程ト同等以上ト主事ニ於テ認メタル場合其ノ科目ニ該當スル訓練項目ハ青年訓練所ニ於テ之ヲ免除スルコトヲ得

前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外青年訓練所ノ訓練項目ノ免除ニ關シテハ別表第九號ニ依ルヘシ

第六條 青年訓練所ニ主事及指導員ヲ置ク

(規)第十五條 青年訓練所ノ主事ハ所務ヲ掌理シ指導員ハ主事ノ指揮ヲ受ケ訓練ヲ擔當ス

(細)第十八條 青年訓練所主事ハ其ノ訓練所ニ於テ教授スヘキ各科目ノ教授細目ヲ編成スヘシ

(規)第十六條 公立青年訓練所ノ主事ハ實業補習學校長又ハ小學校長ニ、指導員ハ實業補習學校又ハ小學校ノ教員、在郷軍人其ノ他適當ト認メタル者ニ地方長官之ヲ囑託ス

公立青年訓練所ノ主事及指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

私立青年訓練所ノ主事及指導員ハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

(細)第二十三條 規程第十六條ノ規定ニ依リ指導員ノ囑託ヲ爲サムトスルトキハ別表第五號様式ニ依リ主事ハ之ヲ知事ニ内申スヘシ

第七條 青年訓練所ニ於テハ訓練ヲ受クル者ヨリ費用ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 青年訓練所ハ地方長官之ヲ監督ス

第九條 青年訓練所ノ設置廢止、訓練ノ課程其ノ他必要ナル事項ハ文部大臣之ヲ定ム

(規)第十三條 青年訓練所ヲ設置セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ公立青年訓練所ニ在リテハ管理者

青年訓練所令

1101

青年訓練所

11011

ニ於テ、私立青年訓練所ニ在リテハ其ノ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一、名 稱

二、位 置

三、規 則

四、青年訓練ヲ受クル者ノ概數

五、開設年月日

六、經費及維持ノ方法

前項第一號乃至第三號ノ變更ハ地方長官ニ開申スヘシ

(細)第二十九條 青年訓練所設置認可稟請書ハ別表第八號様式ニ依ルヘシ

(細)第八條 青年訓練所規則ニハ概ネ左ノ事項ヲ掲クヘシ

一 訓練ノ項目及其ノ課程ニ關スル事項

一 訓練實施ノ季節及授業日時ニ關スル事項

一 入所退所ニ關スル事項

一 課程ノ修了ニ關スル事項

(規)第十四條 青年訓練所ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

(規)第八條 現ニ學校ニ在學シ地方長官ニ於テ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル者ハ之ヲ青年訓練所ノ訓練ヲ受クル者ト看做ス

(細)第十二條 規程第八條ノ規定ニ依リ當該學校ノ課程青年訓練所ノ課程ト同等以上ナルコトノ認定ヲ受ケムトスルトキハ縣立學校ニ在リテハ學校長其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ其ノ管理者私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 學校ノ名稱

二 位 置

三 學 則

四 生 徒 數

(細)第十三條 前條ノ規定ニ依リ認定ヲ受ケタル學校ニ在學セル者訓練ヲ受クルコトヲ得ル最高年齢(二十歳以上二十一歳未満)ニ達シタルトキハ當該學校ニ於テ別表第四號様式ニ依ル證明書ヲ交付スヘシ

(規)第十七條 青年訓練所ハ別表ノ様式ニ依リ青年訓練名簿ヲ調製スヘシ

(規)第十八條 青年訓練所ハ訓練ヲ受クル者ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

(規)第十九條 青年訓練所ハ訓練ヲ受クル者ヲシテ青年訓練手帳ヲ所持セシムヘシ

青年訓練所令

11011

青年訓練所

青年訓練手帳ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

(規)第二十條 青年訓練所ハ青年訓練ノ課程ヲ修了シタル者ニ修了證ヲ授與スヘシ但シ訓練ヲ受クルコト概ネ四年ニシテ第五條ニ定ムル時數ノ訓練ヲ受ケタル後入營スル者ニ對シテハ修了證ヲ授與スヘシ

(細)第六條 青年訓練所ノ所定ノ課程ヲ修了シタル者ニハ別表第三號様式ニ依ル修了證ヲ授與スヘシ

修了證ヲ授與スヘキヤ否ヤノ認定ニ關シテハ所定時數ノ訓練ヲ受ケタルコトヲ標準トスヘシ中途入營又ハ病氣其ノ他特別ノ事情ニ依リ所定時數ノ訓練ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ適當ノ時期ニ於テ其ノ時數ノ補充ヲ爲スヘシ

(細)第七條 中途青年訓練所ヲ退所シタル者其ノ受ケタル訓練ニ關シ證明ヲ申出デタルトキハ當該青年訓練所ニ於テ關係事項ヲ青年訓練名簿ニ記入シ且青年訓練手帳ノ關係欄ニ記入捺印シテ之ヲ證明スヘシ

(細)第二十四條 補助ノ金額ハ之ヲ青年訓練所ノ主事及指導員ノ手當ニ充當スヘシ、但シ年手當主事六拾圓指導員參拾六圓ニ達シタルトキハ之ヲ他ノ經費ニ充當スルコトヲ得

(細)第二十五條 青年訓練所ニハ左ノ諸表簿ヲ備ヘ一定ノ期間之ヲ保存スヘシ

- 一 青年訓練名簿 全 永 年
- 一 修了證書臺帳 全 永 年
- 一 出席簿 全 十 年
- 一 青年訓練日誌 全 五 年
- 一 監督官指示事項錄 全 永 年
- 一 其ノ他必要ナル諸表簿

(細)第二十六條 市町村長私立青年訓練所設立者ハ毎年五月三十一日及十月三十一日限青年訓練所ニ關スル調査ヲ別表第六號様式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

(細)第二十七條 青年訓練所主事ハ毎年十月三十一日迄ニ四月一日ヨリ九月末日ニ至ル出席狀況ヲ翌年四月三十日迄ニ十月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル出席狀況ヲ別表第七號様式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

- (細)第二十八條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ知事ハ之ヲ公示ス
- 一 青年訓練所ノ設置又ハ廢止ヲ認可シタルトキ
 - 二 規程第六條ノ規定ニ依リ實業補習學校ヲ以テ青年訓練所ニ充テタルトキ
 - 三 規程第八條ノ規定ニ依リ學校ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタルトキ
 - 四 青年訓練所ノ名稱又ハ位置ノ變更アリタルトキ

青年訓練所令

青年訓練所

(細)別表第三號様式

第 號	修了證
所訓練 印	氏名
年月日生	
右者本青年訓練所ノ課程ヲ 修了シタルコトヲ證ス	
年 月 日	
岡山縣何郡何村(市町) 何青年訓練所 主事	
氏名	氏名

(細)別表第四號様式

第 號	證明書
校印	氏名
年月日生	
右者本校ニ於テ青年訓練所 ノ課程ト同等以上ノ課程ヲ 修了シタルコトヲ證ス	
年 月 日	
岡山縣何學校長 氏	
氏名	氏名

(細)別表第五號

青年訓練所指導員囑託申請

申請事項 何郡(市)何村(町)立青年 訓練所指導員ヲ囑託ス 年手當 圓給與	受持學科	一ケ年受持時間數	氏名	履歷大要 年月日生岡師一部卒 何 小學校訓導 年月日生何農學校卒何實業 補習學校助教等 年月日生在郷軍人伍長等
--	------	----------	----	--

右囑託相成度(別紙履歷書相添へ)申請候也

年 月 日

岡山縣知事

殿

岡山縣何郡(市)何村(町)立

青年訓練所主事 氏

名 稱

備考 學校教員以外ノ者ヲ申請スル場合ハ履歷書ヲ添付スヘシ
青年訓練所令

青年訓練所

(細)別表第六號様式

青年訓練ニ關スル調査

二一〇

一 入所状況

(四月三十日調
九月三十日調)

計	入所年齢 該當者數	現役將校ヲ配屬 シテ訓練ヲ行ヘ ル學校ノ卒業者 及在學者數	規程第八條 認定學校 在學者數	病弱者不具 發疾者數	資格 該當者數	青年訓練所ニ 於テ訓練ヲ受 ケル者ノ數	充當實業補習學 校ニ於テ訓練ヲ 受ケル者ノ數	計	入所歩合

備考

- 一 入所年齢該當者數欄ニハ他ノ市町村ニ出寄留セル者及之ニ準スル者ヲ除キ他ノ市町村ヨリ入寄留セル者及之ニ準スル者ヲ加ヘタル數ヲ配入スルコト
- 二 資格該當者數欄ニハ入所年齢該當者數ヨリ現役將校ヲ配屬シテ訓練ヲ行ヘル學校ノ卒業者及在學者規程第八條ノ認定學校在學者病弱者不具發疾者數ヲ減シタル數ヲ配入スルコト
- 三 入所歩合欄ニハ青年訓練ヲ受ケル者ノ總數ヲ資格該當者數ニテ除シタル商ヲ百倍シ小數第三位ヲ四捨五入シタル數ヲ配入スルコト

二、前年修了證又ハ證明書ヲ受ケタル者ノ數

青年訓練所ニ於テ修了 證ヲ受ケタル者ノ數	充當實業補習學校ニ於テ ノ證明書ヲ受ケタル者ノ數	青年訓練所規程第八條ノ學 校ニ於テ所定ノ證明書ヲ受 ケタル者ノ數	計

三、職員數

主事	指導員			計
	學校教員	在郷軍人	其他	

備考

- 一 主事ニシテ指導員ヲ兼ヌル者ハ其ノ數ヲ指導員欄ニ掲グルト共ニ主事欄ニモ之ヲ附記スルコト

二一一

青年訓練所

一一二

二 學校教員ニシテ在郷軍人タルモノハ適當ナル符合ヲ附シテ分別ノ上之ヲ學校教員欄ニ掲クルコト

四、費用

主事指導員ノ手當總額	其ノ他	計

備考

一 青年訓練所ニ充テタル實業補習學校ノ職員及費用ニ關シテハ青年訓練ニ關係アル分ヲ青年訓練所ノ職員數欄及費用欄ニ準ジテ別ニ記入スルコト
右分別不可能ナルトキハ其ノ旨ヲ明ニシテ職員數及費用ヲ記載スルモ差支ナキコト

附記

一 私立青年訓練所所在ノ市町村ハ私立青年訓練所ニ關スル調査ハ之ヲ除クコト
二 私立青年訓練所設立者ハ本様式ニ準ジ該當事項ヲ調査報告スルコト

(細)別表第七號様式

何青年訓練所出席調査表

九月三十日調
(三月三十一日調)

年次	種別	訓練時數	在籍生徒數	生徒ノ出席スヘキ時間數	生徒出席時間總數	出席歩合
第一年次						
第二年次						
第三年次						
第四年次						
計						

備考

一 訓練時數欄ニハ實施セル訓練時數ヲ記入スルコト
二 生徒ノ出席スヘキ時間數欄ニハ訓練時數ニ在籍生徒數ヲ乘シタル時數ヲ記入スルコト但シ一訓練項目ノ全部ヲ免除シタルモノアル場合ハ免除項目ニ該當スル訓練時數ニ免除セラレタル生徒數ヲ乘シタル時數ヲ控除スルコト
三 生徒出席時間總數欄ニハ生徒ノ出席シタル總時間數ヲ記入スルコト但シ一訓練項目ノ全部ヲ免除シタル青年訓練所令

一一三

青年訓練所

二二四

ルモノアル場合ハ當該生徒ノ該項目ニ出席シタル時數ハ出席總時間數ヨリ控除スルコト

四 出席歩合欄ニハ生徒ノ出席スヘキ時間數ヲ以テ生徒出席時間總數ヲ除シタル商ヲ百倍シ小數第三位ヲ

四捨五入シタル數ヲ記入スルコト

(細)別表第八號様式

稟 請

年 月 日

岡山縣何郡(市)何村(町)長 氏

名 團

岡山縣知事 殿

青年訓練所設置認可ノ件

申請書ハ三通ヲ要ス

左記ニ依リ本市青年訓練所設置致度候條御認可相成度及稟請候也

記

一名 稱 何訓練所

二位 置 何郡(市)何村(町)何番地

何實業補習學校併置
又ハ何尋常高等小學校併置

三 規 則 別紙ノ通り

四 青年訓練ヲ受クルモノノ概數

十六才以上十七才未滿 何 名

十七才以上十八才未滿 何 名

十八才以上十九才未滿 何 名

十九才以上二十才未滿 何 名

合 計 何 名

五 開所年月日 昭和 年 月 日

六 經費及維持方法

本所ハ毎年度本市(町村)費及補助金ヲ以テ經費ニ充テ之ヲ維持ス

本年度豫算別紙ノ通り

別 紙

昭和 年度何郡(市)町立青年訓練所經費豫算書(様式)

歳 出(市町村)ノ歳出豫算當該款項目記入ノコト)

金 圓 總 額

内 譯

金 圓 給 料

主事年手當

青年訓練所令

二二五

青年訓練所

金 圓

金 圓

金 圓

金 圓

金 圓

金 圓

金 圓

金 圓

金 圓

指導員年手當一人

圓何人分

雜給

旅費

諸雇給

需用費

備品費

消耗品費

青年訓練手帳費

通信運搬費

雜費

(細)別表第九號

一 修身及公民科ハ一般ニ之ヲ課スヘシ但シ相當ノ素養アル者ニ對シテハ課程ニ適當ナル斟酌ヲ加フルモノトス

二 教練ハ一般ニ之ヲ課スヘシ但シ身體ノ情況ニ依リ之ヲ課セサルコトヲ得

青年訓練所以外ニ於テ正課トシテ教練ノ授業ヲ受ケタル者ニ對シテハ青年訓練所主事ハ指導員ノ意見ヲ聞キ左ノ範圍内ニ於テ青年訓練所ニ於ケル教練時數ヲ減少スルコトヲ得

一 現役將校ヲ配屬スル學校(尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校)ニ於テ第二學年程度(高等小學校第一學年修了程度ヲ入學資格トスル學校)ニ於テ第一學年程度迄教練ヲ修得セル者ニ對シテハ百時

二 同第三學年程度(高等小學校第二學年修了程度ヲ入學資格トスル學校)ニ於テ第一學年以下之ニ做フ迄教練ヲ修得セル者ニ對シテハ二百時

三 同第四學年程度迄教練ヲ修得セル者及第五學年程度迄教練ヲ修得セルモ教練ノ檢定ニ合格セサル者ニ對シテハ三百時

四 同第五學年程度迄教練ヲ修得シ教練ノ檢定ニ合格シタル者ニ對シテハ全時數

五 高等小學校卒業者實業補習學校前期修了者其ノ他ノ學校第二學年程度修了者ニ對シテハ百時前項ノ適用ニ付テハ商船學校ハ之ヲ現役將校ヲ配屬セル學校ト看做ス

知事ニ於テ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メタル教練ノ課程ヲ修メタル者引續キ青年訓練所ニ入所シタル場合ハ當該青年訓練所ニ於テハ其ノ入所以後ノ年次ニ配當シタル教練時數ヲ授クヘシ

三 普通學科及職業科

一 實業補習學校後期以上ノ修了者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トシテ實業教育ヲ施ス中等學校第三學年修了程度(高等小學校第一學年修了程度ヲ入學資格トスル學校)ニ在リテハ第二年以下之ニ做フ以上ノ青年訓練所令

青年訓練所

學力アル者ニ對シテハ普通學科及職業科ハ之ヲ課セサルコトヲ得
 二 前號ニ掲クルモノヲ除ク外中等學校第三學年修了程度以上ノ學力アル者ニ對シテハ普通學科ハ之ヲ課セサルコトヲ得

各青年訓練所規則(準則)

第一章 目的、名稱及訓練期間

第一條 本訓練所ハ青年訓練所令ニ依リ青年ノ心身ヲ鍛鍊シテ國民タル資質ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス

第二條 本訓練所ハ岡山縣何郡何村(市、町)立何訓練所ト稱ス

第三條 訓練期間ハ四年トス

第二章 訓練ノ項目時數及訓練季節

第四條 訓練項目ハ修身及公民科教練普通學科職業科トス

第五條 訓練時數ハ四年ヲ通シテ修身及公民科百時教練四百時普通學科二百時職業科百時トス

第六條 訓練項目ノ課程左表ノ如シ

項目及科目	年次			
	第一	第二	第三	第四
修身及公民科				
職業科				
普通學科				

職業科		普通學科				
(工業)	(商業)	(音樂)	理科	地理	歷史	國語

前項ノ訓練項目ハ教練ヲ除ク外適宜合分シテ之ヲ授クルコトアルヘシ
 (注意) 前表ニハ大正十五年五月四日文部省訓令第十四號青年訓練所訓練要旨ニ依リ土地ノ情況ニ應ジテ適宜其ノ要旨及左記各年次ノ時間數ヲ記入ノコト

- 一 修身及公民科 二十五時以上
- 二 職業科 百時以上

青年訓練所

一一一〇

三 普通學科

五十時以上
二十五時以上

第七條 現ニ學校ニ在學スル者若ハ相當ノ學力アリト認メラレタル者又ハ特別ノ事由アル者ニ對シテハ一部ノ訓練項目ヲ課セサルコトアルヘシ

第八條 訓練季節訓練日及毎訓練日ノ訓練始終時刻凡ソ左ノ如シ

第九條 本訓練所ノ毎年ノ訓練ハ一月ニ始リ十二月ニ終ル

(注意) 本年度ハ中途開始スベキモ右ハ青年訓練所規程附則ニ依リ一月入所ト看做サルヘキニ依リ別段ニ其ノ旨規定スル要ナシ

第三章 入所退所及ビ修了

第十條 本訓練所ノ入所期ハ毎年一月トス但シ已ムヲ得サル事情アリト認メタル者ハ中途之ヲ入所セシムルコトアルヘシ

第十一條 本訓練所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ前年十一月三十日ニ於テ十六歳以上十七歳未満者トス但シ已ムヲ得サル事情アリト認メタル者ハ十七歳以上ニシテ入所セシムルコトアルヘシ

第十二條 本訓練所ニ入所セムトスル者ハ義務教育修了後ノ學歷ヲ摘記シタル履歷書ヲ添ヘ願書ヲ本訓練所ニ差出スヘシ

(注意) 本條ノ規定ニ依ル願書及履歷書ノ様式ハ一定スルヲ要セサルモ氏名生年月日原籍戸主トノ關係現居住所及學歷等ヲ明ニセシムルコト

第十三條 本訓練所ニ入所シタル者ニハ所定ノ青年訓練手帳ヲ所持セシム

第十四條 他ノ青年訓練所ヨリ轉所シタル者ハ本訓練所ニ青年訓練手帳ヲ提示スヘシ

第十五條 本訓練所ヲ退所セムトスルトキハ其ノ事由ヲ述ヘ且青年訓練手帳ヲ提出シ出席時數其ノ他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受クヘシ

第十六條 訓練ヲ受クル者ニシテ居住所身分等ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第十七條 所定ノ課程ヲ修了シタル者ニハ左記様式ノ修了證ヲ授與ス

第	號	修	了	證
氏	名	生	年	月
日	年	月	日	年
右者	本青年訓練所ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス			
氏	名	生	年	月
日	年	月	日	年
岡山縣何郡何村(市町)立	何青年訓練所主事			
氏	名	印		

第十八條 本訓練所主事ハ必要ニ應シ訓練ヲ受クル者ニ對シテ賞罰ヲ加フルコトアルヘシ

第十九條 本訓練所ニ於テハ訓練ヲ受クル者ヨリ費用ヲ徵收セス

青年訓練所令

一一一一

○青年訓練所訓練要旨 文訓一四(大一五、五)

修身及公民科

修身及公民科ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キテ道德上ノ思想及情操ヲ涵養シ時代ノ趨勢ニ鑑ミテ國民生活ニ必須ナル心得ヲ授ケ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス
修身及公民科ハ特ニ國家的觀念及立憲ノ本義ヲ明徴ナラシメ公民トシテノ責務ヲ完カラシムルニ必要ナル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

注 意

一 修身及公民科ヲ授クル際ニハ青年ノ年齡境遇ニ適應セシメ特ニ實際生活ニ適切ナル事例ヲ引用スヘシ

一 忠良賢哲ノ記念日、國民ノ記念スヘキ日及教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル場合等ニ於テハ之ニ因ミテ適宜教訓スヘシ

一 授業ノ際濫ニ時事ヲ批議スル等ノコトナカルヘシ

教練

教練ハ心身ヲ鍛鍊シ堅忍剛毅ノ精神ト規律ヲ重ンシ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス
教練ニ於テハ凡ソ左ノ事項ヲ授クヘシ
各個教練、部隊教練、陣中勤務、旗信號、距離測量、軍事講話等

注 意

教練ヲ授クル際ニハ適宜體操ヲ課シ尙競技ヲ加フルコトヲ得

普通學科

普通學科ハ日常必須ノ智能ヲ増進セシムルヲ以テ要旨トス

普通學科ハ國語、數學、歷史、地理、理科等ニ關スル事項ニ就キ適宜之ヲ授クヘシ

注 意

一 國語、數學、理科等ニ關スル事項ハ職業ニ適切ナルモノニ留意シテ之ヲ授クヘシ

一 歷史及地理ハ特ニ修身及公民科トノ聯絡ヲ保チ我カ國體及國勢ヲ知ラシメ國民精神ヲ涵養スルニ必要ナル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

職業科

職業科ハ職業ニ關スル智能ヲ授ケ兼テ職業ニ對スル趣味ト勤勞ヲ重ニスル習性トヲ養フヲ以テ要旨トス

職業科ハ農業、工業、商業等ノ中ニ就キ土地ノ情況ニ適切ナル事項ヲ授クヘシ

注 意

一 職業科ニ於テハ能率増進ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

一 職業科ニ於テハ成ルヘク實習ヲ指導シ且見學等ヲ爲サシムヘシ

○青年訓練手帳樣式 文告二六五(大一五、四)

一 手帳ノ大サ等ハ左ノ通トス

表裝ハクローストシ成ルヘク青色又ハ綠色ノモノニシテ水氣ニ堪ヘ且汚損シ難キモノヲ用フルコト

表

青年訓練所

四寸五分

二二四

青年訓練手帳

二寸六分

裏

名氏

二 卷頭ニハ教育ニ關スル勅語ヲ奉記シ青年訓練手帳ニ關スル心得ヲ掲ケ假名ヲ附スルコト
青年訓練所令
二二五

青年訓練所

三 訓練ニ關シ必要ナル事項ヲ記入スルタメ左ノ各欄ヲ設クルコト

年 月 日	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	現居住所へ移轉シタル年月日	年 月 日	現居住所	氏名	
											原籍	戸主トノ關係

學 歴

年 月 日	" "	" "	" "	" "	" "	卒業(修了)ノ年月日	卒業(修了)シタル學校名及學年

青年訓練所令

青年訓練所令

計	自 年 次						項目 免除時數	出席時數
	合	訓練ヲ受ケル時數	免除時數	年	年	月		
								修身及公民科
								教 練
								普通學科
								職業科
								合計
								主事印

青年訓練所

入所退所修了						
青年訓練所名	入所退所修了					
年	月	日	年	月	日	主事印
年	"	"	年	"	"	主事印
月	"	"	月	"	"	
日	"	"	日	"	"	
年	"	"	年	"	"	主事印
月	"	"	月	"	"	
日	"	"	日	"	"	
						主事印

備	考

四 各欄ノ紙數ハ適宜トスルコト

(參 考)

○青年訓練手帳ニ關スル心得

- 一 本手帳ハ青年訓練所ニ出席ノ際必ズ之ヲ携帯スベシ
- 二 本手帳ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉記シ且訓練ニ關スル重要事項ヲ記載スルモノナレバ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ取扱ヒ汚損又ハ紛失等ノコト無キヲ期スベシ
- 三 本手帳中學歴欄及出席時數欄ハ青年訓練所ニ於テ之ヲ記入スベシ但シ出席時數欄ハ當該年次ノ終リタルトキ之ヲ記入スルモノトス
- 四 前項以外ノ各欄ハ青年訓練ヲ受クル者ニ於テ適宜記入スルモノトス
- 五 居所移轉等ノ事由ニ因リ退所スル場合ニ於テハ本手帳ヲ青年訓練所ニ提示シ出席時數其ノ他當該訓練所ニ於テ受ケタル訓練ニ關係アル事項ノ記入證明ヲ受クルモノトス
- 六 他ノ青年訓練所ニ入所シタルトキハ其ノ青年訓練所ニ本手帳ヲ提示スルモノトス
- 七 本手帳ヲ滅失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ新ニ手帳ヲ當該訓練所ニ提出シテ必要ナル事項ノ記入ヲ申出ツベシ

青年訓練所

一三三二

○青年訓練所費補助ニ關スル件 教第三〇七六號學務部長通牒(昭二、一二)

青年訓練所管理 者 市町村長
 青年訓練所充當實業補習學校管理者町村長

青年訓練所費補助金ハ自今青年訓練所管理者又ハ青年訓練所充當實業補習學校管理者ノ申請ニ依リ審査ノ上市町村市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ交付可相成ニ付左記様式ノ申請書ヲ毎年一月十日限リ御提出相成度此段依命及通牒候也

申請 請

岡山縣 何郡(市) 何青年訓練所
 又ハ岡山縣何郡(市)青年訓練所充當何實業補習學校

管理 者 氏 名

年 月 日
 岡山縣知事宛

青年訓練所費補助金下附ニ關スル件

昭和二年十二月二十六日依命通牒相成候首標ノ件ニ關シ別紙關係書類ヲ付シ申請候也
 記

(別紙)

主事指導員手當支給狀況

職名	担当訓練要目	氏名	年手當額	自四月至三月 支拂精算額	自一月至三月 支拂見込額	計
主事						
指導員						
同						
同						
同						
計						

備考

青年訓練所規程第六條ニ依リ青年訓練所ニ充當シタル實業補習學校ニ在リテハ青年訓練ヲ實施スル爲ニ支給セル職員ノ手當額ニ就キ記入スルコト

○青年訓練所費補助ニ關スル件

一三三三

○青年訓練所ニ設置スル狹窄射撃場ニ關スル件

教第九三一號學務部長通牒(昭三、四、七)

岡山市市長
倉敷市市長
青年訓練所主事宛
青年訓練所充當
實業補習學校長

青年訓練所ニ於テハ射撃發火演習等ハ必スシモ之ヲ爲サシムルノ趣旨ニ無之從テ青年訓練所ニ狹窄射撃場ヲ設置スルカ如キハ之ヲ要望セサル義ニ有之候得共青年訓練所經營主體ノ經濟狀態等ニ鑑ミ狹窄射撃場ヲ設置スルコト困難ナラス且其ノ施設ヲ希望スル場合ニ於テハ大體左記大正十五年四月二十一日警保局警發甲第三二號中等以上ノ學校ニ設置スル狹窄射撃場ニ關スル件通牒ニ準據シテ施設致スヘキ旨其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條御了知相成度

記

警保局警發甲第三二號

大正十五年四月二十一日

各廳府縣長官殿 (東京府モ含ム)

內務省警保局長

中等以上ノ學校ニ設置スル狹窄射撃場ニ關スル件通牒

現役陸軍將校ヲ配置セル中等以上ノ學校ニ於テ教練振作ノ爲其ノ校庭ニ狹窄射撃場ヲ設置スル向有之候趣ニ候處右ハ大體別紙標準ニ依リ設置セシムル様御措置相成度

追テ本件ハ陸軍及文部兩當局トモ打合濟ニ有之候間申添候

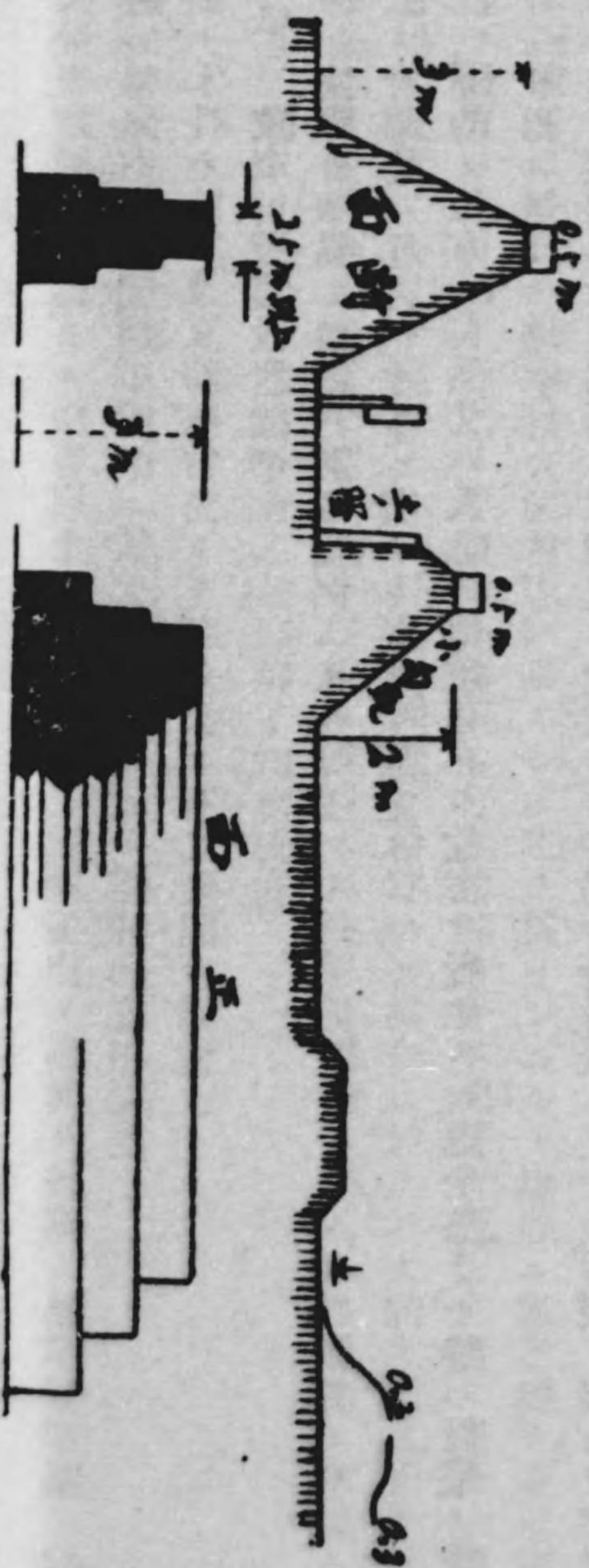
(別紙) 狹窄射撃場設置標準

- 一 狹窄射撃場ノ構造ハ別紙圖例ニ依ルコト
 - 二 射撃場ハ危害ヲ生スル虞ナキ場所ヲ選定スルコト
 - 三 標的ノ後方ニ天然又ハ人造ノ掩體存在シ危害ヲ發生スル處全然ナキ時ハ射撃場ノ設置ヲ省略スルヲ得ルコト
 - 四 三ニ該當セサル場所ニ射撃場ヲ設置シタル場合發射臺ニ立チテ射撃ノ後方ヲ望見シ狹窄射撃場實包有効着彈距離(三八式約二百四十メートル、三十年式約九十メートル)内ニ土地又ハ建物ヲ睹透シ得ル時ハ之ヲ睹透スコトヲ得サル程度ノ高サヲ有スル防彈牆ヲ射撃ノ後方ニ設クルコト
- 防彈牆ハ三センチメートル松板ノ裏面ニ三ミリメートルノ亞鉛引鐵板ヲ打付ケタルモノ又ハ二
十センチメートルノ松板(薄キ松板ヲ數枚重ネテ以上ノ寸法トスルモ差支ナシ)ヲ以テ構造スル
コト

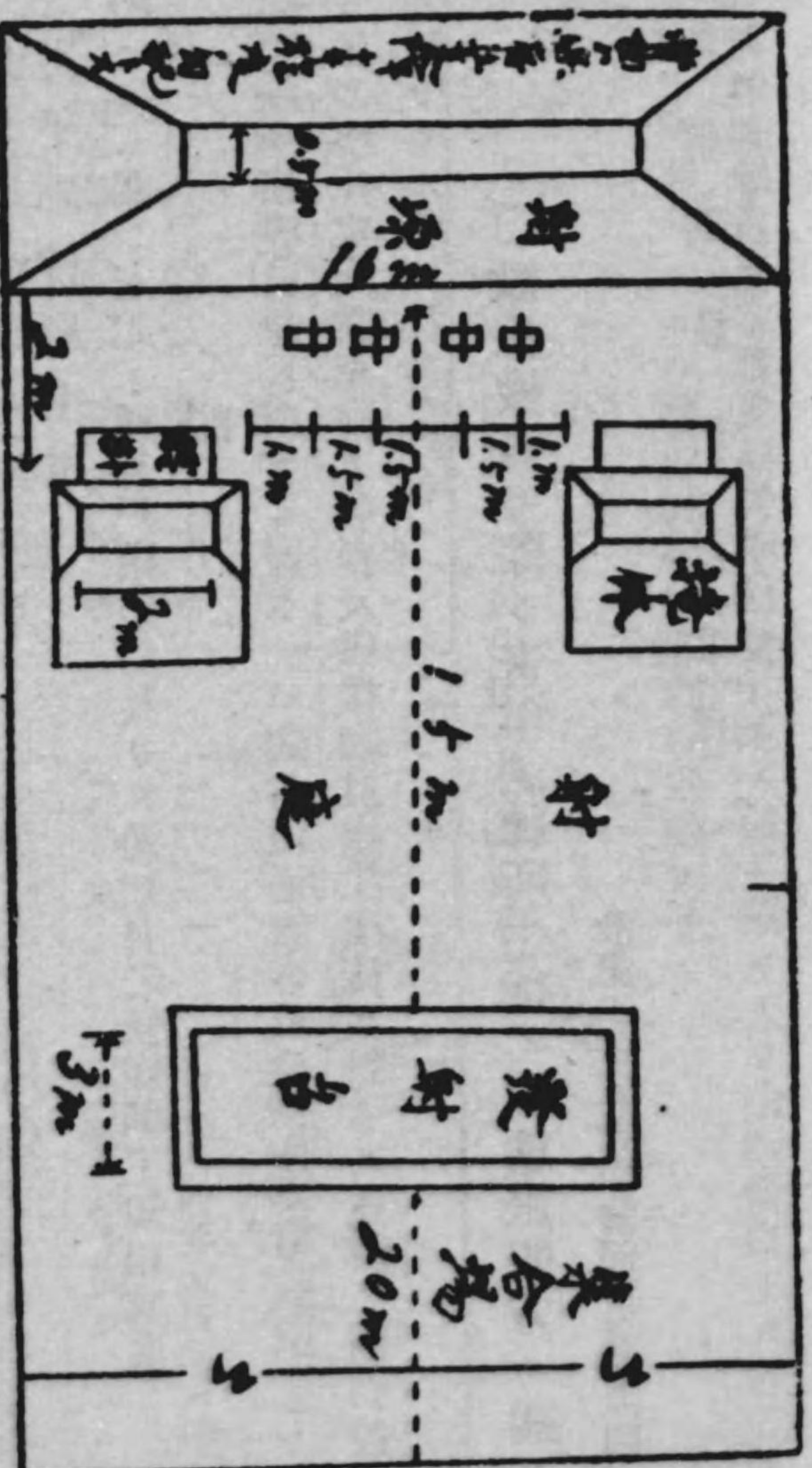
青年訓練所ニ設置スル狹窄射撃場ニ關スル件

青年訓練所

- 五 射撃ノ内斜面其ノ他射撃場内ニハ岩石ノ類ヲ露出セサルコト
- 六 射撃場ノ構築物ニシテ發射臺ニ面スル側ニハ金具類ヲ露出セサルコト
- 七 射撃脚ニ標的脚挿入孔ヲ設ケ之ニ標的脚ヲ挿入シ又ハ植杭シテ結着スル等標的ヲ固定スルコト
- 八 兩監的場掩體ノ間ニ設クル標的(大體九十センチメートル方形トスルコト)數ハ最大限四個ト爲スコト
- 九 監的所ニ交通スル時ハ一時射撃ヲ中止スルコト



左圖ハ射撃ノ土裝又ハ土囊ヲ以テ
築造スル場合ノ構築要領ヲ示ス



狹窄射撃場構築要領圖 1/100

青年訓練所ニ設置スル狹窄射撃場ニ關スル件

青年訓練所

二三八

○青年訓練所ニ對シ學生ノ割引規定ヲ適用セザル件

教第五一二號學務部長通牒(昭二、三、一〇)

市 青年訓練所主事宛

首標ノ件ニ關シ左記ノ通神戶鐵道局長ヨリ通知有之候條御了知相成度

記

青年訓練所指導員並入所生ニ對シテハ國有鐵道旅客及荷物運送規則第三十一條第五十二條及第七十八條ニ依ル學生定期乘車券ノ發賣及學校職員學生生徒ニ對スル運賃ノ割引並學生團體ノ特別割引ノ規定ヲ適用セザル義ニ有之(下略)

○徵兵検査ニ際シ青年訓練所生徒ノ出席證明方ニ關スル件

教第三一五號學務部長通牒(昭二、三、二五)

市 青年訓練所主事宛
青年訓練所充當實業補習學校長

從來徵兵検査ニ際シ行ヒ來リタル壯丁教育成績調査ニ就テハ青年訓練所實施後ノ情況ニ顧ミ其ノ訓練ノ効果ヲモ參考ニ資スルノ目的ニ基キ壯丁教育調査要項改正相成候ニ就テハ各壯丁ニ關シ其ノ既往ノ

學歷及現ニ青年訓練所ノ訓練ヲ受ケ且ツ其ノ出席優良ナルヤ否ヤヲ調査致スコトニ相成居ルヲ以テ右優良出席ニ就キテハ左記標準ニ依リ青年訓練所主事充當實業補習學校長及青年訓練所規程第八條ノ學校長ニ於テ本人ノ所持セル青年訓練手帳ノ備考欄ニ夫々出席優良ナル旨記入證明ノ上徵兵検査ノ際本人ヲシテ持參セシムル様取計相成度此段通牒候也

記

青年訓練所優良出席者標準時數

年次	別	標準時數		備考
		訓練	其ノ他ノ訓練項目	
昭和二年徵兵検査ヲ受クル者		一〇〇時	五〇時	昭和元年十二月末日迄ニ受ケタル訓練時數ヲ標準トス
昭和三年徵兵検査ヲ受クル者		二〇〇	一五〇	前年末日迄ニ受ケタル訓練時數ヲ標準トス
昭和四年徵兵検査ヲ受クル者		三〇〇	二五〇	以下同シ
昭和五年徵兵検査ヲ受クル者		三〇〇	三〇〇	
昭和六年以降徵兵検査ヲ受クル者		以下同前	以下同前	

徵兵検査ニ際シ青年訓練所生徒ノ出席證明方ニ關スル件

二三九

青年訓練所

備考

- 一 充當實業補習學校、青年訓練所規程第八條ノ學校在學者ニシテ徵兵検査ヲ受クル者ニ就テモ前表ノ標準ニ依ルコト
- 一 前表ノ標準時數中ニハ所定ノ條件ニ依リ免除シタル訓練時數ヲ含ムコト

○青年訓練所生徒精勤章ニ關スル件 教第一五三七號學務部長通牒(昭四、五)

青年訓練所 主事宛
青年訓練所充當實業補習學校長

青年訓練所生徒出席獎勵ノ爲精勤章ヲ附與セラル、向モ不尠候處之カ準則制定ノ希望モ有之候ニ付左記相定メ候條御參考相成度

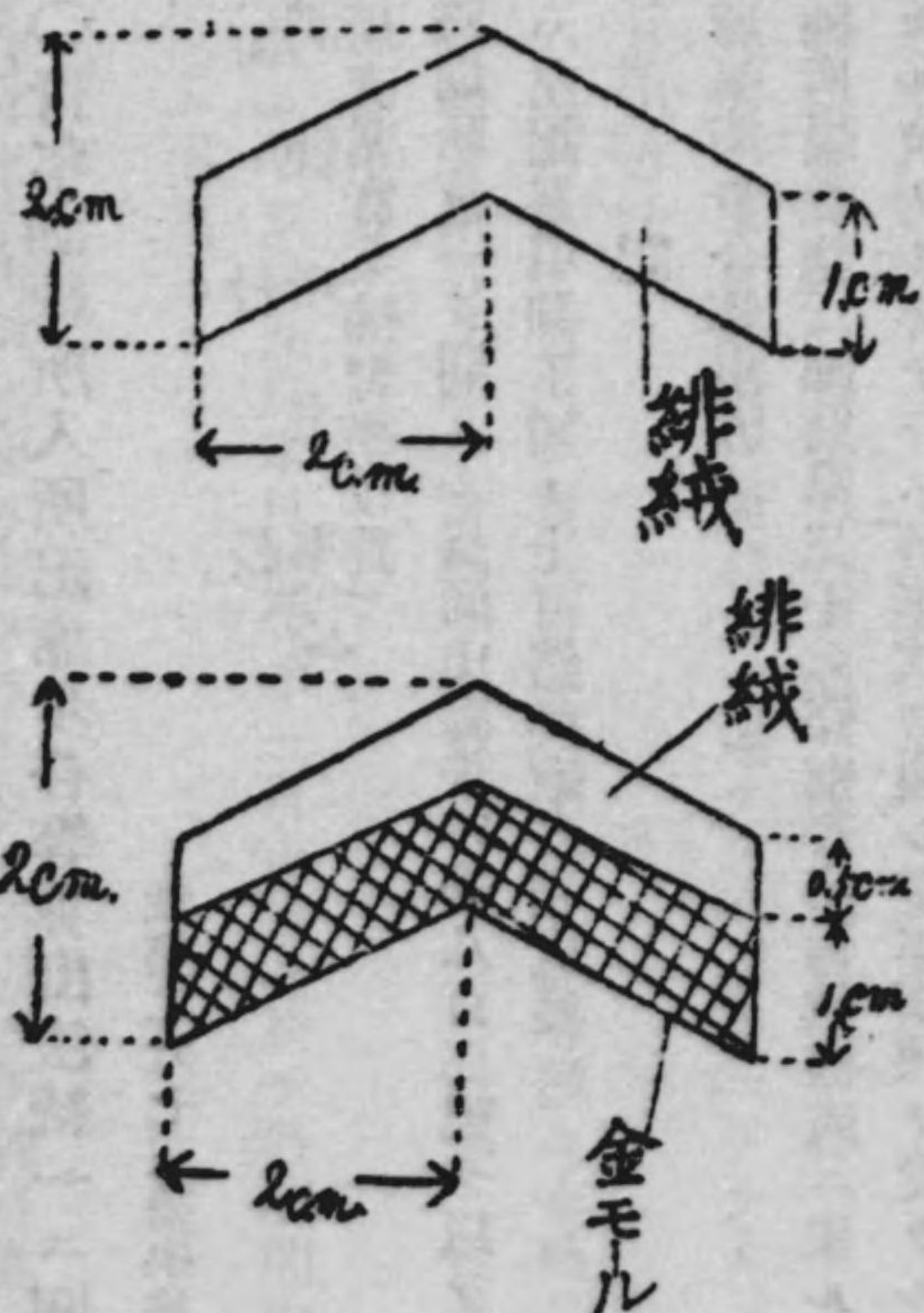
記

- 第一條 青年訓練所生徒中出席優良ナルモノニ精勤章ヲ附與ス
- 第二條 精勤章ハ第一種、第二種ニ區別ス第一種精勤章ハ半年毎(一ヶ年規定時數ノ半數ニ達シタル者)ニ百時以上(規定ノ免除時數ハ控除ス)出席シタルモノニ附與スルモノトシ第二種精勤章ハ其ノ一個ヲ以テ第一種精勤章二個ニ代フルモノトス
- 第三條 精勤章ヲ附與シタル時ハ青年訓練手帳ニ記入ス

第四條 精勤章ハ上方ヨリ第一種、第二種ノ順序ニ右袖上部ニ附ス

第五條 精勤章ヲ有スル者ニシテ生徒タル本分ヲ紊ルカ如キ所爲アリタル時ハ之ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第六條 精勤章ノ様式左圖ノ如シ



青年訓練所生徒精勤章ニ關スル件

○青年訓練所入所出席歩合等算出法統一ニ關スル件

教第二六七三號學務部長通牒(昭五、九)

市町村
青年訓練所
青年訓練所充當實業補習學校長

青年訓練所事務刷新統一ヲ期スル爲岡山縣告示第八百二號ヲ以テ青年訓練所規程施行細則ヲ一部改正相成候ニ就テハ左記事項御了知ノ上可然御取計相成度

記

- 一 青年訓練所入所歩合算出方法
 - 一 青年訓練所規程施行細則第二十六條別表第六號様式ニ依ル入所狀況調査ハ當該年度第一年次ニ新入所セルモノノミナラス各年次ヲ通シ青年訓練ヲ受クル者ノ總數ヲ調査報告スルコト
 - 二 前項入所狀況調査ハ四月末日現在ヲ五月三十一日迄ニ九月末日現在ヲ十月三十一日迄ニ調査報告スルコト但シ現ニ青年訓練所ニ在所シ出席ノ督勵ヲ受ケタルニモ拘ラス一ケ年以上皆缺席ヲナシ且將來出席ノ見込ナキモノト認メラルベキ事情アルモノハ訓練名簿ヨリ之ヲ除籍スルコト
 - 三 入所歩合ハ入所資格該當者數ヲ以テ青年訓練ヲ受クル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ百倍シ小數

第三位ヲ四捨五入シパーセントヲ以テ表ハスコト

四 入所資格該當者數トハ入所年齡該當者數ヨリ左記各項該當者ヲ控除シタルモノナルコト

イ 現役將校ヲ配屬シテ教練ヲ行ヘル學校卒業者、在學者、青年訓練所規程第八條ノ規定ニヨル學校在學者

ロ 病弱者不具癡疾者ニシテ訓練ニ堪ヘサルモノ

五 入所年齡該當者又ハ資格該當者數ハ可及的實數ヲ得シコトニ努メ帳簿調査ニ加ヘテ各種團體其ノ他ノ應援ニ依リ實地戸別調査ヲ遂ケテ得タルモノナルコト

二 出席歩合算出方法

青年訓練所ハ毎月其ノ月内ニ實施シタル訓練ノ總時數ニ在籍生徒數ヲ乘シタル時數ヲ以テ生徒ノ出席シタル總時數ノ累計ヲ除シテ得タル數ヲ百倍シ小數第三位ヲ四捨五入シテパーセントヲ以テ各月別ニ算出スルコト

前項ノ算出法ニ準シテ九月末日及翌年三月末日ニ於テ各期間中ノ總出席歩合ヲ算出シ十月末日及翌年四月末日迄ニ提出スルコト

備考

一 出席歩合算出法前項ノ如ク定メラレタルヲ以テ訓練時數ノ減免ヲ受ケタルト否トニ拘ラス其ノ青年訓練所入所出席歩合等算出法統一ニ關スル件

青年訓練所

二四四

青年訓練所ニ於テ實施スル總テノ訓練ニ出席セシムル様獎勵スルノ必要アリ但シ一訓練項目ノ全部ヲ免除セラレタルモノ(例實業補習學校後期卒業生ニ對スル普通學科職業科ノ訓練ヲ全部免除シタル場合)ニツキテハ必スシモ此ノ限リニ非ス從ツテ或ル月ノ青年訓練所ノ訓練實施總時數ヲ算出スル場合ニハ此等免除項目ニ該當スル總時數(例實業補習學校後期卒業生三人ナル場合ハ普通學科及職業科ニ對スル訓練實施時數ノ合計ヲ三倍シタル時數)ヲ其ノ月内ニ實施シタル訓練ノ總時數ニ生徒數ヲ乘シタル時數ヨリ控除スルコト而シテ此等ノ者ノ當該項目ニツキテ出席シタル時數ハ全生徒ノ出席總時數ヨリ控除スルコト

- 二 修了證ヲ交付スヘキヤ否ヤハ法定ノ標準訓練時數ヨリ各人減免時數並免除項目ノ時數ヲ控除シタル時數ヲ標準トシテ判定スルコト
- 三 修了受證者歩合算出方法
 - 修了受證者歩合ハ第四次生徒數ヲ以テ修了證ヲ受ケタルモノノ數ヲ除シタルモノヲ(一)ノ歩合トシ第四次ニ相當スル入所資格該當者數ヲ以テ修了證ヲ受ケタルモノノ數ヲ除シタルモノヲ(二)ノ歩合トシ何レモ小數第三位ヲ四捨五入シテパーセントヲ以テ算出スルコト

第七編

職

員

(名稱待遇服務諸給與)

○市町村立小學校長及教員名稱及待遇ノ件 勅令二一八(明二四、一一)

- 第一條 市町村立小學校長及教員ノ名稱左ノ如シ
 - 一 小學校長
 - 二 訓 導 小學校ノ正教員タル者ノ名稱トス
 - 三 准訓導 小學校ノ准教員タル者ノ名稱トス
- 第二條 市町村立小學校長及訓導ハ判任官ノ待遇トス但シ小學校長ニシテ成績アル者ハ特ニ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得
- 第三條 前條ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル小學校長ノ待遇相當官等ハ高等官五等以下トス

○公立學校職員分限令 勅令三(大四、一)

- 第一條 本令ハ公立ノ大學、專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ適用ス

公立學校職員分限令

二四五

第二條 公立學校職員ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依ルニ非サレハ其ノ職ヲ免セラ
ルルコトナシ

第三條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ免スルコトヲ得

- 一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
- 二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免職ヲ願出テタルト
キ

三 學校編制ノ變更ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ノ規定ニ依リ其ノ職ヲ免スルトキハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官
高等懲戒委員會、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條 公立學校職員ハ廢職若ハ廢校ノ場合又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ當然退職
者トス

第五條 第八條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ又ハ第八條第二項ノ規定ニ依リ
休職ト爲リ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス

第六條 公立學校職員ハ其ノ意ニ反シテ待遇ヲ下シ又ハ俸給ヲ減セララルコトナシ

第七條 文官分限令第九條及第十條ノ規定ハ公立學校職員ニ關シ之ヲ準用ス

(參照) 文官分限令 (明治三二、勅令六一)

第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條
第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第八條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

- 一 懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
- 二 刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ
- 三 學校編制ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
- 四 教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スルトキ
- 五 教育上又ハ事務上必要ナルトキ

公立學校職員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ
師範學校訓導ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 休職ノ期間ハ前條第一項第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所
ニ繫屬中トシ第三號及第五號ノ場合ニ在リテハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年、

公立學校職員分限令

判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ一年トシ第四號及前條第二項ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス

第十條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ之ヲ受ケサルノ外總テ在職者ト異ナルコトナシ

第十一條 文官分限令第十四條ノ規定ハ公立學校職員ニ之ヲ準用ス

(參照) 文官分限令

第十四條 免官ハ勅任官ニ在リテハ内閣總理大臣、奏任官ニ在リテハ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在リテハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在リテハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

○公立幼稚園長及保母ノ待遇ニ關スル件 勅令七五(大一一五、四)

朕公立幼稚園ノ園長及保母ノ待遇ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
公立幼稚園ノ園長及保母ハ判任官ノ待遇トス

○公立學校職員ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トノ

間ノ轉任ニ關スル規定 勅令四五六(明三二、一一)

第一條 奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル官立公立ノ學校又ハ圖書館ノ職員ヲ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ任用シ又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ヲ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル官立公立ノ學校又ハ圖書館ノ職員ニ任用スル場合ハ轉任ト看做シ其ノ手續ハ轉任ノ例ニ依ル

第二條 前條ノ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ノ種類ニ關シテハ明治三十二年勅令第二百一號第二條ノ規定ヲ準用ス但シ同條中官立トアルハ官立公立トス

○市町村立小學校教員俸給ニ關スル件 勅令二(明三〇、一)

第一條 市町村町村學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但市町村、町村學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以内ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村、町村學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超市町村立小學校教員俸給ニ關スル件

エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ
義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條 市町村立小學校ノ本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ貳拾四圓、其ノ他ノ市及市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ貳拾圓、其他ノ町村ニ在リテハ拾六圓トス

前項市ニ準スヘキ町村ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

第五條 專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會、町村長、町村學校組合長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス

第六條 本科正教員及准教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス

高等小學校	本科正教員		准教員
	男	女	
	拾貳圓	拾圓	九圓
		拾七圓	七圓

尋常小學校	男		女	
	拾圓	七圓	八圓	六圓
				七圓

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第八條 本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス

本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長、戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

○市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル件

勅令三四〇(大八、七)

地方長官ハ當分ノ内明治三十年勅令第二號ノ規定ニ拘ラス市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區ニ對シ市町村立小學校教員ノ俸給ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ市町村立小學校教員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關シテ之ヲ準用ス

市制又ハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル市町村ニ準スキ公共團體及其ノ組合ハ本令ノ適用ニ付テハ市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル件

之ヲ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ト看做ス

○市町村立小學校教員俸給及臨時手當支出ニ關スル規程

縣令九(大九、三)

第一條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合及其ノ學區ハ當分ノ内第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スヘシ

第二條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合及其ノ學區ハ土地ノ狀況ニ依リ前條ノ額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

前項ニ依リ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條 市町村立小學校本科正教員ノ月俸平均額ハ市ニ在リテハ六拾八圓市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ六拾貳圓其ノ他ノ町村ニ在リテハ五拾五圓トス

前項市ニ準スヘキ町村ハ郡市ニ於テハ知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第四條 (削除)

第五條 特別ノ事情アル市町村、市町村學校組合、町村學校組合及其ノ學區ハ知事ノ認可ヲ受ケ第三條ノ金額ヲ減スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市參事會町村長町村學校組合長ノ從來提出セル專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給支出ニ關スル意見書ノ金額ハ大正九年八月分ヨリ其ノ金額ニ七割ヲ加算シタルモノト看做ス但シ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

○市町村立小學校教員加俸令 勅令一三三(明三三、三)

第一條 府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ

前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條 小學校教員ニシテ五年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ本科正教員ニ在リテハ年額貳拾四圓乃至六拾圓トシ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額拾貳圓乃至貳拾四圓トス但年功加俸ヲ受ケタル後勤續五年ヲ加フル毎ニ本科正教員ニ在リテハ年額

市町村立小學校教員加俸令

本科正教員及准
教員ノ勤續年數
ハ相互通算ス
公立小學校教員
ニシテ兼任小
學校教員者其ノ
シタル者ニシテ
ニ至リ小學校教
員ニ轉任シタル
場合ハ前ノ兼任
小學校教員ノ勤
續年數ハ通算ス

拾八圓乃至參拾圓專科正教員及准教員ニ在リテハ年額拾貳圓乃至拾五圓ヲ加フルコトヲ得
 第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 道廳府縣視學島廳郡視學及師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ年功加俸ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

年功加俸ヲ受クル者ニシテ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ノ支給ヲ止ム
 第七條 市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額六拾圓以下ノ特別加俸ヲ給ス

市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ多級學校ノ一學年ヨリ四學年、五學年又ハ六學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四拾八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得
 僻陋地ノ市町村立尋常小學校ニ勤務スル本科正教員ニハ年額參拾六圓以下ノ專科正教員及准教員ニハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得但前二項ニ依リ特別加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニアラス全一府縣内ニ於テ僻陋地ノ市町村立尋常小學校ニ五年以上勤續スル者ニハ前三項ニ依ル特別加俸ノ

外本科正教員ニ在リテハ年額參拾六圓以下ノ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額拾八圓以下ヲ加給ス

第八條 小學校令ヲ施行セザル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤續スル間其ノ差額ヲ加給ス

○市町村立小學校教員加俸給與細則 縣令三二(昭六、七)

第一條 市町村立小學校教員加俸令第三條第二項ニ依リ給スヘキ年功加俸ハ本科正教員ニ在リテハ年額貳拾四圓トシ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額拾貳圓トス

第二條 市町村立小學校教員加俸令第三條第二項但書ニ依リ加給スル場合ノ年額ハ本科正教員ニ在リテハ拾八圓乃至參拾圓專科正教員及准教員ニ在リテハ拾貳圓乃至拾五圓トス

市町村立小學校教員加俸給與細則

職員

二五六

第三條 市町村立小學校教員加俸令第七條第一項ニ該當スル者ニハ年額六拾圓以下ノ特別加俸ヲ給シ全條第二項ニ該當シ特別加俸ヲ給スル場合ノ年額ハ四拾八圓以下トス

第四條 市町村立小學校教員加俸令第七條第三項ニ該當スル者ノ特別加俸額ハ左表ニ依ル

勤務種別	加俸額	
	本科正教員	專科正教員及准教員
僻陬地甲ニ勤務スル者	三六 ^四	一八 ^四
僻陬地乙ニ勤務スル者	二四	一二

僻陬地甲乙ノ區分ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 市町村立小學校教員加俸令第七條第四項ニ該當スル者ノ加給年額ハ本科正教員ニ在リテハ參拾六圓以下專科正教員及准教員ニ在リテハ拾八圓以下トス

第六條 加俸ハ其ノ金額ヲ二分シ毎年四月、十月ニ於テ其ノ前六箇月分ヲ支給ス但シ休職、退職若ハ其ノ他ノ理由ニ依リ加俸ノ支給ヲ止メタルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第七條 加俸ノ支給、増額、減額停止等ハ凡テ發令若ハ事由發生ノ翌月ヨリ之ヲ計算ス

第八條 休職訓導ニシテ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ休職中年功加俸及特別加俸ノ三分ノ一ヲ給ス

第九條 加俸ハ病氣又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ缺勤シタルカ爲本俸ヲ減給シタル場合ニ於テモ之ヲ支給ス

ス

第十條 市町村立小學校教員加俸令第七條第三項ニ該當シ特別加俸ヲ支給スル場合ハ別ニ辭令ヲ用イサルモノトス

第十一條 特別加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ學校ニ轉任シ又ハ特別加俸ヲ受クル學級ノ編制若ハ擔任ヲ變更シタルトキハ別ニ辭令ヲ用イスシテ其ノ加俸ヲ失フモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月岡山縣令第三十二號市町村立小學校教員加俸給與細則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ加俸ヲ受クル者ハ從前ト同額ノ加俸ヲ受クルモノトス

○市町村立小學校教員加俸給與手續 縣訓七(昭六、八)

第一條 學校長ハ毎年四月一日現在ニ於テ其ノ校教員ニ關シ加俸給與細則第一條及第二條ニ依リ加俸ヲ支給セラルヘキ事由發生セリト認メタルトキハ四月二十日迄ニ別記様式第一號乃至第三號ニ依リ阿哲支廳管内ニ在リテハ支廳長ニ市内ニ在リテハ市長ニ其ノ他ニ在リテハ知事ニ開申スヘシ支廳長又ハ市長前項ノ開申ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ四月二十五日迄ニ知事ニ之ヲ具申スヘシ

市町村立小學校教員加俸給與手續

二五七

職員

二五八

第二條 學校長ハ加俸給與細則第三條乃至第五條ニ依リ新ニ加俸ヲ支給シ又ハ其ノ支給額ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ阿哲支廳管内ニ在リテハ支廳長ニ市内ニ在リテハ市長ニ其ノ他ニ在リテハ知事ニ其ノ事由發生ノ年月日、受給金額及受給者職氏名ヲ開申スヘシ

阿哲支廳長又ハ市長前項ノ開申ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ知事ニ具申スヘシ
第三條 加俸受給者死亡シタルトキハ阿哲支廳長、市長又ハ學校長ハ前條ノ例ニ依リ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 阿哲支廳長、市長又ハ學校長ハ別記様式第四號ニ依ル加俸臺帳ヲ備附ケ異動ノ都度之ヲ整理スヘシ

第五條 加俸受給者ハ阿哲支廳管内ニ在リテハ其ノ管内ヨリ市ニ在リテハ其ノ區域ヨリ其ノ他ニ在リテハ各其ノ學校ヨリ一人ノ總代理人ヲ定メ夫々其ノ氏名ヲ阿哲支廳長、市長又ハ學校長ニ届出ツヘシ

第六條 加俸受給者ハ毎年三月十日及九月十日迄ニ別記様式第五號ニ依ル通知書ヲ總代理人ニ提出スヘシ

第七條 總代理人ハ別記様式第六號ニ依ル請求書ヲ阿哲支廳管内ニ在リテハ支廳長ニ市内ニ在リテハ市長ニ其ノ他ニ在リテハ學校長ニ提出スヘシ

第八條 阿哲支廳長、市長、又ハ學校長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ加俸臺帳及總代理人指定届書ト對照シ相違ナシト認メタルトキハ其ノ旨證明ノ上遲滯ナク知事ニ進達スヘシ

第九條 前條ノ規定ニ依リ請求書ヲ進達シタル後ニ於テ加俸支給額ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク前三條ノ規定ニ準シ請求變更ノ手續ヲ爲スヘシ

様式第一號(用紙半紙)

開 申
年 月 日

何學校長 氏 名 宛

知事(支廳長)(市長)何 某 殿
年功加俸ニ關スル調査ノ件

左表ノ通及開申候也

資格	就職年月日	歴任學校名	勤続年月數	職名	氏名	名	摘	要

市町村立小學校教員加俸給與手續

二五九

備 考 員

- 一 休職アリタルトキハ休職ノ理由及其ノ期間ヲ具體的ニ摘要欄ニ記入ノコト
- 二 歷任學校名欄ニハ何郡(何市)何校ト記入ノコト
- 三 「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トハ各別紙ニスルコト

第 號

開 申

年 月 日

知事(支廳長)(市長)何 某 殿

年功加俸加給ニ關スル調査ノ件

左表ノ通及開申候也

何學校長 氏

名 聞

資格	現在年功加俸支給年月日	全	上年額	現在年功加俸支給年月日	現在年功加俸支給後勤続年數	資格別勤続年數	職名	氏名

樣式第三號(用紙半紙)

備 考

- 一 現在年功加俸支給學校名及前任學校名欄ニハ何郡(何市)何校ト記入ノコト
- 二 「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トハ各別紙ニスルコト

資格	現在年功加俸支給年月日	全	上年額	現在年功加俸支給年月日	現在年功加俸支給後勤続年數	資格別勤続年數	職名	氏名

備 考

- 一 現在年功加俸支給學校名及前任學校名欄ニハ何郡(何市)何校ト記入ノコト
- 二 「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トハ各別紙ニスルコト

樣式第四號(用紙半紙)

年功加俸年額(特別加俸年額)	辭令年月日若ハ事由發生年月日	校名、加俸支給停止年月日事由等	職名	氏名

市町村立小學校教員加俸給與手續

職員

備考 加俸ノ支給廢止、停止年月日及事由ハ之ヲ朱書スヘシ
様式第五號(用紙半紙)

自何年何月何年功加俸(特別加俸)金通知書
至何年何月何年功加俸(特別加俸)金通知書
年額金何程
一金何程

右及通知候也

年 月 日

總代理人何 某殿

校 名 氏 名

氏 名

様式第六號(用紙半紙)

自何年何月何年功加俸(特別加俸)金請求書
至何年何月何年功加俸(特別加俸)金請求書
一金何程
內 譯

加俸年額	加俸受給額	摘	要職名氏	名
円	円			

右 請 求 候 也

年 月 日

正(准)教員何某外何人總代理人
何郡(市)何町(村)大字何又ハ
(何郡(市)何學校内)

職 名 氏 名

仕 拂 命 令 官

岡山縣知事氏 名 殿

前書ノ通相違ナキコトヲ證明ス

年 月 日

備考 年功加俸、特別加俸共ニ加俸ト加給トハ各別紙トシ特別加俸ハ更ニ「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トニ分チ夫々別紙ニスルコト
何郡何學校長氏名(支廳長氏名、市長氏名) 〇

市町村立小學校教員加俸給與手續

○市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依ル僻陬地所在ノ小學校及分教場指定 縣告八六一(昭六、九)

明治四十三年三月告示第二百六號市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依ル僻陬地所在ノ小學校及分教場ヲ左ノ如ク改ム

郡名	學 校 名	等級	所 在 地
御津	高富尋常高等小學校	甲	圓城村大字高富三三六番地外一筆
全	圓城尋常高等小學校	乙	圓城村大字上田東四九五番地
全	福山尋常高等小學校	乙	福山村大字高谷鍛冶屋谷四七〇番地
赤磐	布都美尋常高等小學校小鐘分教場	甲	布都美村大字小鐘字上分五五七番地
全	鳩岡尋常小學校	乙	山方村大字是里字宗成三二二三ノ一番地外七筆
全	杳石尋常小學校	乙	仁堀村大字戶津野字新屋三六番地外一筆
全	布都美尋常高等小學校	乙	布都美村大字小鐘字天王一、八七四番地
全	周匝尋常高等小學校河原屋分教場	乙	周匝村大字河原屋六五二番地
全	竹枝尋常高等小學校大田分教場	乙	竹枝村大字大田字河原一二七九番地
和氣	頭島尋常小學校	甲	日生町大字日生ノ内頭島二九〇五番地

郡名	學 校 名	等級	所 在 地
全	日生尋常高等小學校大多府分教場	甲	日生町大字大多府一番地ノ一
全	和重谷尋常小學校	乙	神根村大字和重谷一、四二三番地ノ一
全	大藤尋常小學校	乙	三國村大字都留岐字美備路坂下一、二四六番地外四筆
全	三國尋常高等小學校	乙	三國村大字多麻字榑木峠一四六一ノ一番地外三筆
全	三保尋常小學校	乙	埴田村大字北山方一、九九七番地
邑久	大島尋常小學校	乙	朝日村大字大島一二六番地
兒島	下津井尋常高等小學校松島分教場	甲	下津井町大字下津井二五六三ノ一番地
全	胸上尋常高等小學校石島分教場	甲	胸上村大字胸上三三一〇番地
小田	飛鳥尋常小學校	甲	神島外村大字飛鳥五七八七番ノ二地
全	眞鍋尋常高等小學校	甲	眞鍋島村四二一八番地
全	六島尋常小學校	甲	眞鍋島村大字六島二〇二九番地
全	堺尋常高等小學校	乙	堺村大字星田二九九七番地ノ第一地
全	宇頭尋常小學校	乙	宇戶村大字鳥頭字堀井山三三二番地
全	北木尋常高等小學校	甲	北木島村字大浦三九七二ノ二番地外十筆
全	白石尋常高等小學校	乙	神島外村大字白石島九〇一番地
全	高島尋常小學校	乙	神島外村大字高島四七六九番地

市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依ル僻陬地所在ノ小學校及分教場指定 二六五

小田 職 全 全 全 後 全 全 全 全 全 全 全 上 全 全 全 全 全 全

堺尋常高等小學校黒木分教場
北木尋常高等小學校楠分教場
北木尋常高等小學校豊浦分教場
北木尋常高等小學校金風呂分教場
芳井尋常高等小學校天神山分教場
明治尋常高等小學校
明治尋常高等小學校池井分教場
明治尋常高等小學校花瀧分教場
三原尋常高等小學校
富山村尋常高等小學校
大和尋常高等小學校
菅谷尋常高等小學校
終南尋常小學校
阿口尋常小學校
巨瀬尋常高等小學校横田分教場
有漢尋常高等小學校精華分教場

乙 甲 甲 甲 甲 甲 乙 乙 乙 乙 乙 甲 乙 乙 乙 甲 乙 乙 乙

堺村大字黒木明見四〇番ノ三
北木島村字楠一三二四九番地
北木島村字豊浦九七六六番地
北木島村字金風呂七八八〇番
芳井町大字天神山横尾地五二六番外四筆
明治村大字種五三二番地
明治村大字池谷一五四九番地
明治村大字花瀧二七三〇番地
三原村大字東三原二九四番地
富山村大字延原三一二番地
大和村大字宮地六三四番地
菅谷村大字竹部一四九七番地ノ内第一外一筆
上竹莊村大字納地一二六五番地
菅部町大字阿口二三九〇番地
巨瀬村大字横田三一三〇番地ノ二
有漢村字田入堂五七八五番地

全 全 全 全 全 阿 全 全 阿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依ル僻陬地所在ノ小學校及分教場指定

西山尋常高等小學校
増原尋常小學校
下切尋常小學校
高山尋常高等小學校
平川尋常高等小學校
布寄尋常高等小學校
小泉尋常小學校
豊永尋常高等小學校
大井野尋常小學校
大井野尋常小學校君山分教場
高瀬尋常小學校
三室尋常小學校
千屋尋常高等小學校
實尋常高等小學校
芋原尋常小學校
三板尋常小學校

甲 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

湯野村大字西山二一〇五番地
玉川村大字増原七八一番地ノ一
玉川村大字下切一二九一番ノ二
高山村大字高山二九七三番地
平川村六一六七番ノ一外十筆
中村大字長地一八一八番地
中村大字小泉字天神二八六番地
豊永村大字佐伏字コホ口六六一八九番地
上刑部村大字大井野一二〇五番地
上刑部村大字大井野三四六三番地ノ第一
新郷村大字高瀬一二〇一番地ノ一
神代村大字油野四一二一番地
千屋村大字花見四八番ノ二
千屋村大字實二二八七番地
上市村大字井村二五一五ノ二番地
新砥村大字釜村字家上三三四〇番地

職	員	地
全	西原尋常小學校	豐並村大字西原字寺道一、五五一ノ一番地外一筆
英田	福山尋常高等小學校	福山村大字万善二八番ノ一地
全	東栗倉尋常高等小學校	東栗倉村大字青野四〇二番地外一筆
全	西栗倉尋常高等小學校	西栗倉村大字長尾一、五五五番地
全	影石尋常小學校	西栗倉村大字影石字之部九八五番地
久米	身基尋常高等小學校	倭文西村大字山手公文北六四三番地
全	里仁尋常高等小學校	倭文西村大字中山手里一、五五一番地
全	中山尋常高等小學校	倭文西村大字中山手奥一、一五一番地
全	黒岩尋常小學校	堺和村字中堺和上口一九二番地
全	堺和尋常小學校	堺和村大字東堺和一八九番地外二筆
全	全間尋常高等小學校	龍川村大字全間一、一五三番地
全	大堺和尋常高等小學校	大堺和村七〇二番地

○公立學校職員俸給令 勅令六六(明三六、三)

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學豫科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ

謂フ

第二條 勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學豫科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル

第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校(高等科ヲ置ク高等女學校ヲ除ク)實業學校(實業專門學校ヲ除ク)盲學校及聾啞學校ノ職員ノ年俸ハ第三號表ニ依ル

第四條 判任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第四號表ニ依ル

第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ六百圓以内、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第七條 教員ニシテ舎監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上ノ教員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其俸給額公立學校職員俸給令

職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千百參拾圓以下ノ者及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸七拾五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前條ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

第十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得

第十四條 前二項ノ規定ハ年俸千百參拾圓以下又ハ月俸七拾五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セララルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 前二條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十六條 休職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ

入學スル場合ニ於テ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得

第十七條 師範學校訓導ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ其ノ服役中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

第十八條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十九條 高等官官等俸給令 (明四三、勅令一三四)

第二十條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第二十一條 死亡賜金ヲ受ケヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相続人ハ其ノ他ノ者ニ男ハ女ニ長ハ幼ニ先ツ

第二十二條 遺族ナキ場合ニ於テハ實家ニ在ル實父母、家督相続人、戸主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

終身官ニ付テハ其ノ在職中死亡シタル場合ニ限り前四項ノ規定ヲ適用ス

公立學校職員俸給令

職員

二七四

- 第二十四條 年俸八十二分シテ毎月之ヲ支給ス
- 第二十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス但シ廢官又ハ廢廳ニ因ル退官者即日他官ニ任セラルトキハ發令ノ翌日ヨリ計算ス
- 休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト見做シ前項ノ規定ヲ適用ス
- 第二十六條 俸給令ノ改正ニ因リ新ニ給スヘキ俸給ハ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス
- 第二十七條 廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス
- 第二十八條 休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年俸ヲ給ス
- 第二十九條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

(參照) 判任官俸給令 (明四三、勅令一三五)

- 第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス
- 前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ
- 第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ

他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ實家ニ在ル實父母、家督相續人、戸主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官等俸給令ノ例ニ依ル

第十八條 俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第一號表 (省略)

第二號表 (省略)

第三號表

教諭	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
學校長	1,000.00	800.00	600.00	400.00	300.00	200.00	150.00	100.00	80.00	60.00	40.00	30.00	20.00
教諭	1,000.00	800.00	600.00	400.00	300.00	200.00	150.00	100.00	80.00	60.00	40.00	30.00	20.00

第四號表

職員

二七五

○公立學校職員俸給支給細則 縣令四三(明三六、五)

- 第一條 年俸月俸ハ毎月二十一日支給ス但シ休日ニ當ルトキハ順延トス
- 第二條 退職及死亡ノトキ又ハ俸給ヲ給セサル休職者ニ在リテハ當月分ノ俸給全額ヲ其ノ際支給ス但シ減俸ニ係ルモノハ其ノ現ニ受クル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス
- 休職退職ノモノニシテ殘務調理ヲ命セラレタル者其ノ調理翌月以降ニ涉ルトキハ調理終了ノ日迄日割ヲ以テ從前ノ俸給ヲ其ノ際支給ス
- 第三條 轉任者ノ俸給ハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其ノ際支給ス
- 俸給支給定日後新任増俸又ハ他ヨリ轉任シ來リタルモノハ俸給ハ日割計算ヲ以テ其ノ際支給ス
- 第四條 病氣ノ爲執務セサルモノ判任官待遇以上ノ者ニシテ九十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノハ此ノ限ニアラス
- 第五條 前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ服忌ヲ受クルモノハ此ノ限ニアラス
- 第六條 忌引ノ場合ト第四條若ハ第五條ノ場合ト連續スルトキハ其ノ忌引ノ日數ヲ控除ス又病氣ト私

事ノ故障ト連續スル場合ニ於テモ之ヲ通算セス

- 第七條 轉任減俸其ノ他ノ事故ニ依リ俸給過渡アルトキハ其ノ際追徴ス
- 第八條 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル
- 第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

○公立學校職員年功加俸令 勅令五一九(大九、一〇)

- 第一條 師範學校並公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校及實業補習學校教員養成所ノ學校長、所長、教諭、助教諭、舍監、訓導及保姆ニシテ五年以上勤続スル者ニ八年功加俸ヲ給ス
- 前項各職間ノ轉職ハ之ヲ勤続ト看做ス學校ノ廢止又ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内前項ニ掲クル職ニ就キタルトキ亦同シ
- 第一項ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ、學校長ニハ師範學校長ヲ包含セス
- 第二條 北海道地方費及府縣ハ前條ノ年功加俸ニ充ツル爲公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金ト同額以上ノ金額ヲ支出スヘシ
- 第三條 北海道地方費及府縣ハ公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金及公立學校職員年功加俸令

前條ノ規定ニ依ル支出金ヲ以テ公立學校職員年功加俸資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

第四條 年功加俸ノ年額ハ別表ニ依ル
第五條 年功加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル
第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルハ一定ノ期間年功加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得

第七條 市町村立小學校ノ訓導又ハ准訓導第一條第一項ニ掲クル職ニ轉シタル場合ニ於テハ其ノ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤続年數ハ之ヲ第一條第一項ニ規定スル勤続年數ニ通算ス小學校ノ正教員又ハ准教員ノ資格ヲ有シ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校教育規程ニ依ル公立小學校ニ在職スル者第一條第一項ニ掲クル職ニ轉シタル場合ニ付亦同シ
前項ノ規定ノ適用ニ付テハ學校ノ廢止又ハ學級編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ第一條第一項ニ掲クル職ニ就キタルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

第八條 師範學校長ニシテ在官ノ儘第一條第一項ニ掲クル職ニ在ル者師範學校長勤続加俸令ニ依リ勤続加俸ヲ受クルトキハ本令ニ依ル年功加俸ハ之ヲ給セス
本令ニ依リ現ニ受クル年功加俸ハ之ヲ停止ス
第九條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外年功加俸ノ支給ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

(別表)

勤続年数	學校長所長教諭助教諭各監		訓導		保婦	
	俸給月額全額以上	俸給月額全額未満	俸給月額全額以上	俸給月額全額未満	俸給月額全額以上	俸給月額全額未満
勤続五年以上十年未満	九拾六圓乃至百貳拾圓	六拾圓乃至十拾貳圓	七拾貳圓乃至九拾六圓	參拾六圓乃至六拾圓	參拾六圓乃至六拾圓	參拾六圓乃至六拾圓
勤続十年以上十五年未満	百四拾四圓乃至百六拾八圓	八拾四圓乃至百八拾圓	百圓乃至百四拾四圓	七拾貳圓乃至八拾四圓	七拾貳圓乃至八拾四圓	七拾貳圓乃至八拾四圓
勤続十五年以上	百九拾貳圓乃至百五拾貳圓	百貳拾圓乃至百五拾圓	百六拾八圓乃至百貳拾圓	九拾六圓乃至百參拾圓	九拾六圓乃至百參拾圓	九拾六圓乃至百參拾圓

公立學校職員年功加俸支給細則 縣令三〇(大一〇三)

第一條 公立學校職員ニシテ公立學校職員年功加俸令第一條ニ該當スル者ニハ左表ニ依リ年功加俸ヲ給ス

勤続年数	學校長教諭助教諭各監加俸年額		訓導保婦加俸年額	
	俸給月額全額以上	俸給月額全額未満	俸給月額全額以上	俸給月額全額未満
勤続五年以上十年未満	六圓	六圓	三圓	三圓
勤続十年以上十五年未満	一圓	一圓	三圓	三圓
勤続十五年以上	一圓	一圓	三圓	三圓

第二條 公立學校職員年功加俸ノ支給ニ關シテハ公立學校職員俸給支給細則ヲ準用ス

○公立學校職員年功加俸給與手續 縣訓一〇六(大一五、一一)

第一條 公立學校職員中年功加俸受給者ハ各學校ヨリ一人ノ總代理人ヲ指定シ其ノ氏名ヲ學校長ニ届出ツヘシ

第二條 年功加俸受給者ハ毎月十日迄ニ別記様式第一號ニ依ル通知書ヲ總代理人ニ提出スヘシ

第三條 總代理人ハ別記様式第二號ニ依ル請求書ヲ學校長ニ提出スヘシ

第四條 學校長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ加俸臺帳及總代理人指定届書ト對照シ相違ナシト認メタルトキハ其ノ旨證明ノ上遲滞ナク知事ニ之ヲ進達スヘシ

第五條 前條ノ規定ニ依リ請求書ヲ進達シタル後ニ於テ加俸支給ノ事由發生シ又ハ加俸金額ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク前三條ノ規定ニ準シ追加請求又ハ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 學校長ハ別記様式第三號ニ依ル加俸臺帳ヲ備付クヘシ

第七條 學校長ハ其ノ校職員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ別記様式第四號ニ依リ遲滞ナク知事ニ之ヲ開申スヘシ

一 年功加俸ヲ受クヘキ事由發生シ又ハ消滅シタルトキ

實業補習學校ノ
教員ニ在リテハ
開申ノ際ハ履歷
書ヲ添付スルコ
ト

二 加俸年額ニ異動ノ事由ヲ生シタルトキ

第八條 學校長ハ左ノ各號ニ依リ毎年三月末日現在ニ於テ其ノ校職員中四年以上五年未滿九年以上十年未滿十四年以上十五年未滿勤續ノモノヲ調査シ四月二十日迄ニ別記様式第五號ニ依リ知事ニ之ヲ報告スヘシ

一 職員ノ範圍及勤續年數ノ計算ニ關シテハ公立學校職員年功加俸令第一條及第七條ノ規定ニ依ル
二 公立學校職員俸給令第九條ニ依リ俸給ノ分割支給ヲ受クル者ハ支給額多キ方ノ職員ノ欄ニ掲ケ俸給額ハ其ノ合計ニ依ル

第九條 學校長ハ毎年五月末日迄ニ前年度ニ於ケル其ノ校職員ノ年功加俸支給ノ情況ヲ調査シ別記様式第六號ニ依リ之ヲ報告スヘシ

様式第一號

昭和 年 月分公立學校職員年功加俸通知書

年額金何 程
一金何 是ハ何月何日ヨリ何月何日迄何日(月)分

内 譯 一金何 程 國庫納金額
一金何 程 現金受領額

公立學校職員年功加俸支給細則

○公立學校職員年功加俸給與手續ニ關スル件 教第一五七八號學務部長通牒(昭三、五)

實業補習學校校長宛

大正十五年十一月訓令第六六號ヲ以テ標記ノ手續相定メラレ候處往々ニシテ其ノ請求ニ遲滯スル者及
同手續第七條乃至第九條ノ開申若ハ報告ヲ怠ル向モ不尠爲ニ事務ノ處理上支障ヲ來シ甚遺憾トスル處
ニ有之候條爾後訓令ノ期日ヲ嚴守シ請求上遺漏ナキヲ期セラレ度爲念及通牒候也

追テ自今受給資格發生及加俸年額異動ニ關スル開申ノ際ハ參考ノ爲履歷書添付相成度

○官吏服務規律 勅令三九(明二〇、七)

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
- 第四條 官吏己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

(注意) 官吏服務規律ハ
小學校長及教員
ニ適用ナキモ實
業補習學校教員
及中等學校教員
等ハ其ノ適用ヲ
受ク

裁判所ノ召喚ニ依リ証人又ハ鑑定人トナリ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可
ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

- 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
- 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス
- 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
- 第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其職務ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ請負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

官吏服務紀律

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
 第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本廳長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○女教員產前產後ニ於ケル休養ニ關スル件 (大一一、文調一八)

女教員ノ產前產後ニ就キ特ニ保護方法ヲ講スルハ頗ル必要ナルコトニシテ若シ其ノ方法宜シキヲ得サレハ母體胎兒並嬰兒ノ健康障害ヲ來スノミナラス直接間接ニ教育上不良ノ影響ヲ及ホシ國民保健上並

產前產後ノ休養
 期間ハ賜暇ニ準
 シテ取扱フコト

教育上忽ニスヘカラサル問題ナレハ各地方長官ハ左ニ指示スル事項ニ則リ適當ノ方法ヲ講シ此訓令ノ趣意ヲ貫徹スル様努メラレ度

一 女教員ノ產前產後ニ於ケル休養ニ關シテハ左記各號ニ依ルコト

イ 分娩後六週間休養ヲ爲サシムルコト

ロ 醫師ノ診斷書ニ依ル分娩豫定日前二週間休養ヲ爲サシムルコト但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ產婆ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷書ニ代フルヲ得

ハ 前號ノ分娩豫定日ヲ超エテ尙分娩セサル場合ニハ事實分娩アルマテ休養ヲ繼續セシムルコト

二 幼稚園ノ保母ニ對シテモ前項ニ準シ休養ヲ爲サシムルコト

○女教員產前產後ニ關スル件 教第四〇八號學務部長通牒(昭二、三、四)

- 岡山市長
- 男女兩師範學校校長
- 公立高等女學校校長
- 實業補習學校校長
- 小學校校長

今般其ノ筋ヨリ左記甲號ノ如キ照會有之タルニ對シ乙號ノ如ク回答セシ旨通牒有之候ニ付御了知相成度

女教員產前產後ニ關スル件

(甲) 號

女教員妊娠三ヶ月ニシテ流産シタルトキト雖モ大正十一年九月十八日貴省訓令第十八號第一項「イ」ニ基キ取扱可然哉母體健康保持上ノ精神ヨリスレハ右「イ」ニヨリ支障ナキモノノ如クナルモ「イ」ハ分娩トアリ流産ハ分娩トハ認メ難ク聊カ疑義相生シ候條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

(乙) 號

九月二十三日教第一〇三五七號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ大正十一年九月文部省訓令第十八號第一項「イ」ニ該當セサル儀ニ付御了知相成度

追テ妊娠二十八週以前ニ於ケル流産失産人工妊娠中絶等ハ總テ本件ノ通御取扱可然ニ付爲念申添候

○學校職員通勤ニ關スル件 學第二〇二三號學務部長依命通牒(昭三、九)

- 公立中等學校校長
- 公立實業補習學校校長
- 公立小學學校校長

學校職員ハ任地ニ居住スヘキ義務アルニ拘ラス往々遠距離ヨリ通勤セルモノアルハ洵ニ遺憾ナル義ニ付自今カカル事無之様充分御留意相成度此段依命及通牒候

人工妊娠中絶ヲ爲シタル場合ト雖モ醫師ニ於テ妊娠二十八週以前ニ於ケル流産失産人工妊娠中絶等ハ總テ本件ノ通御取扱可然ニ付爲念申添候

追テ貴校職員中萬止ムヲ得サル事情アルモノニ就キテハ職務ニ支障ヲ來タササル限り左記標準ニ準據シテ通勤認可方可然御取計相成度尙任地以外ヨリ通勤セル學校長ハ此ノ際改メテ通勤認可又ハ許可ノ申請書御提出相成度

記

通勤距離十軒以内ニシテ通勤所要時間一時間以内ナル場合

○服 忌 令 (抄録)太政官布告一〇八(明七、一〇)

一 父 母	忌 五十日	内規七日	一 養 父 母	忌 三十日	内規七日
一 嫡 母	全 十日	全 七日	一 繼 父 母	全 十日	全 七日
一 離 別 母	全 五十日	全 七日	一 夫	全 三十日	全 七日
一 妻	全 二十日	全 五日	一 嫡 子	全 二十日	全 四日
一 末 子	全 十日	全 三日	一 養 子	全 三十日	全 三日
一 夫ノ父母	全 三十日	全 五日	一 祖 父 母	全 三十日	全 五日
一 曾祖父母	全 二十日	全 五日	一 高祖父母	全 二十日	全 四日
一 伯叔父姑	全 二十日	全 三日	一 兄弟姉妹	全 二十日	全 四日
一 異父兄弟	全 十日	全 四日	一 嫡 孫	全 十日	全 三日

職員	全三	日全一日	一會孫支孫	全三	日全一日
一末孫	全三	日全一日	一甥	全三	日全一日
一繼父兄弟	全三	日全一日	一甥	全三	日全一日
一七才未滿ノ小兒ハ無服忌					

忌ノミノ要項ヲ記シタリ服ハ記サス詳シクハ服忌令ヲ見ルヘシ

二九六

第八編 恩 給

○恩 給 法 法律四八(大一二、四) 〔條文ニ(施)ノ字ヲ冠シタルハ恩給法施行令(勅令)ナリ〕

第一章 總 則

- 恩給給與原則
 - 恩給ノ種類
 - 年金タル恩給ノ給與期間
 - 恩給金額ノ切上
 - 請求消滅時効
 - 請求消滅時効特例
-
- 第一條 公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
 - 第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ
 - 普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス
 - 第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル
 - 第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
 - 第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
 - 第六條 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期

恩 給 法

二九七

時効停止

間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス
前項ノ規定ハ普通恩給又ハ増加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條 時効期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時効完成セス

時効期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時効完成セス

時効期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時効期間內ニ到達シタルモノト看做ス

二以上ノ恩給

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮内官ノ恩給規程ニ依

年金恩給權一般消滅原因

ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一 死亡シタルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

(施)第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍內ニ在リタルコトヲ要ス

(施)第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得
裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

恩給

第十一條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス
 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ
 限ニ在ラス

第十二條 恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外内閣恩給局長之ヲ裁定ス

(施)第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ内閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定
 スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 内地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學
 校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテ
 ハ府縣知事之ヲ裁定ス
- 二 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外内地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サ
 ルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス
- 三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞
 學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リ
 テハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス
- 四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州(南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ)又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ

俸給ヲ受クル警察監獄職員(陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク)
 及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警部補、巡查及消防手並其ノ遺族ノ恩給ハ
 道知事)、臺灣ニ在リテハ臺灣總督(州又ハ廳ノ警部補及巡查並其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳
 長)、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長
 官之ヲ裁定ス

- 五 内地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ
 北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)之ヲ裁定ス
- 六 恩給法第二十四條第三號ニ掲クル待遇職員(國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ
 恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテ
 ハ警視總監)、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長之ヲ裁定ス

第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ内閣恩
 給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ内閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ
 出訴スルコトヲ得

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

恩給法

裁決ノ効力
訴訟ノ裁決ト恩
給審査會
恩給ノ負擔

第十四條 内閣總理大臣及内閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ窮東ス

第十五條 内閣總理大臣第十三條第二項ノ訴訟ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 文官及準文官並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 二 軍人及準軍人並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス
- 三 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス
- 四 前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 五 警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 六 待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ

分擔請求

神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條 前條第一號、第二號又ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年中ニ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得前條

第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若クハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

恩給法

前項ノ規定ハ前條第四號若ハ第五號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

(施)第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシテ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキニ種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額(下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ金額ヲ俸給年額ト看做ス)ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤続在職年ノ一年ニ付一年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤続ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ

同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤続在職年ノ一年ニ付六月

前三項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

(施)第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第十八條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第一章 公務員

第十九條 本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職

恩給法

三〇五

團體ヨリノ納金及交付金

公務員準公務員ノ意義

文官、准文官ノ
恩給

ヲ謂フ本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者ハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ
第二十條 文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國
庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニアル者ニシテ前項但書ノ規
定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

(施)第六條 左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文
官トス

一 地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第二十一條 軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二 國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者
準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

軍人準軍人ノ意

一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生

二 勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

(施)第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼
年學校、陸軍戸山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍
ノ士官候補生、海軍豫備生徒及海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第二十二條 教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 公立ノ學校若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及
判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

二 府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指
定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

(施)第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州
ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

恩給法

教育職員準教育
職員ノ意

警察監獄職員ノ
意義

(施)第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保婦ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第二十三條 警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 警部補、巡查、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛
- 二 看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
- 三 判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條 待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
- 二 判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技手、感化院職員及矯正院職員
- 三 地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
- 四 前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

(施)第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 道路管理職員制ニ依ル職員

待遇職員ノ意義

- 二 地方土木職員制ニ依ル職員
- 三 地方産業職員制ニ依ル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
- 四 地方測候所職員制ニ依ル職員
- 五 地方學校衛生職員制ニ依ル職員
- 六 地方社會教育職員制ニ依ル職員
- 七 地方社會事業職員制ニ依ル職員
- 八 地方建築職員制ニ依ル職員
- 八ノ二 地方警察職員制ニ依ル職員
- 八ノ三 地方體育運動職員制ニ依ル職員
- 九 防疫職員制ニ依ル職員
- 十 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員
- 十一 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員
- 十二 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員
- 十三 癩療養所職員制ニ依ル職員
- 十四 家畜防疫職員制ニ依ル職員
- 十五 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、産業、衛生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技

- 術ニ従事スル職員(府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
- 十六 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、衛生、産業、物産検査、社會事業又ハ社會教育ノ事務又ハ技術ニ従事スル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
- 十七 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ産業、土木、衛生、教育又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ従事スル職員

(施)第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 造幣醫專賣醫及專賣藥劑師
 - 二 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 - 三 鐵道醫
 - 四 北海道廳事業手
 - 五 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師鐵道醫及鐵道藥劑師並臺灣ニ於ケル警察醫
 - 六 臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員
- 第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
- 一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
 - 二 現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

- 願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
 - 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
 - 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
 - 五 待遇職員ニ在リテハ任命
- 第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ名號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
- 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
 - 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除、志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職
 - 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職
 - 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

恩給

準公務ノ就職退職ノ意義

在職年計算原則

官職併有ノ場合ノ年數計算

軍人恩給權在職年計算

警察監獄職員恩給權在職年計算

五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地境內ノ勤務又ハ外國ノ鎮戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再就職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 公務員ニ以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ就テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條 軍人ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十一年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條 警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

從軍ニヨル在職年加算

第三十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一 戰地ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二 戰地外ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ職務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス戰爭ノ期間及地域職務ノ範圍並戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

(施)第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法

第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二 戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到着シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタルモノニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準

恩給法

交戦擾亂地勤務ニヨル在職年加算

戒嚴地勤務ニヨル在職年加算

外國鎮戍ニ服シタル在職年加算

航空機乗務ニヨル在職年加算

スルモノヲ含ム) 下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス
二 戦争開始後職務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戦争中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 公務員外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危険ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 公務員戒嚴地境内ニ於テ危険ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條 公務員外國鎮戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

(施)第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎮戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎮戍ノ爲内國ヲ出發シタルトキハ内國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎮戍ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルトキハ内國歸著ノ月迄加算ス

第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月

ル在職年加算

月以内ヲ加算ス

(施)第十四條 恩給法第二十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乗シ特ニ危険ト認ムル航空試験ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乗シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月

三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第三十七條 潜水艦乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

潜水艦乗務ニヨル在職年加算

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(施)第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陲又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

恩給法

(施)第十六條 邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到着シタル月ヨリ其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

(施)第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

- 一 有毒ノ瓦斯若クハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノ
 - 二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦若ハ水雷艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乗員トシテノ現業勤務
 - 三 炭坑内切羽ニ於ケル連續的現業勤務
 - 四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務
- 前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

遠洋航海ニヨル在職年加算

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(施)第十八條 恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千哩ヲ超ユル航海ヲ謂フ

(施)第十九條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到着シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從事シテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ

除算年

恩給

三一八

終ル二種以上ノ加算年ヲ附セララルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス
第四十一條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一 普通恩給又ハ増加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三 在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

五 宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條 左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一 宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二 準軍人ノ在職年月數

三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル

通算年
本條ハ教育職員ニハ當分ノ内適用セズ
第九十九條第二項參照

準公務員ノ在職年

俸給ノ意義

其ノ勤続年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤続年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ、第三十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條ノ規定ハ前條第一項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

(施)第二十條 恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 年功ニ因ル加俸

恩給法

三一九

普通恩給ノ要件
増加恩給ノ要件

準公務員等ノ増

- 二 府縣知事ノ指定地加俸
- 三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教ノ職務俸
- 四 第一號ニ掲クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸
- 五 警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱瘓ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及増加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癱瘓ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及増加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受ケル増加恩給ヲ不具癱瘓ノ程度ニ相應スル増加恩給ニ改正ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癱瘓カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱瘓ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十七條 前條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ

加恩給

公務傷病推定

在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

- 一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
 - 二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
 - 三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ
- 前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス
- (施)第二十一條 恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル
- (施)第二十二條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

- 一 マラリア (黒水熱ヲ含ム)
- 二 猖紅熱
- 三 コレラ

恩給法

氣 (戰地ニ限ル)

- 四 脚
- 五 發疹チフス
- 六 腸チフス
- 七 バラチフス
- 八 ベスト
- 九 回歸熱
- 十 赤痢
- 十一 流行性腦脊髄膜炎
- 十二 流行性感胃
- 十三 肺ヂストマ病
- 十四 トリバノゾーム病
- 十五 ワイルス氏病
- 十六 カラアザール
- 十七 黃熱

公務傷病ノ原因

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

程度、準公務員ノ階等

戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癱疾ノ程度並教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(施)第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷病ニハ左

ニ掲クルモノヲ謂フ

一 戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中不可抗力ニ因ル傷病

二 暴徒鎮壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊蕃人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷病

三 外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷病

四 航空機ニ乗シ航空勤務中又ハ潛水艦ニ乗シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷病

五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス

六 職務ヲ以テコレラ又ハベストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

(施)第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具癱疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

恩給法

三三三

特別項症

- 一 常ニ就床ヲ要シ且複雑ナル介護ヲ要スルモノ
- 二 重大ナル精神障礙ノ爲常ニ監視又ハ複雑ナル介護ヲ要スルモノ
- 三 身體諸部ノ障礙ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

- 一 複雑ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
- 二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ
- 三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ癱シタルモノ
- 四 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

- 一 精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ
- 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癱シタルモノ
- 三 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

第三項症

- 四 兩耳全ク聾シタルモノ
- 五 腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項症

- 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 兩腎丸ヲ全ク失ヒタルモノ
- 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
- 五 兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第五項症
恩 給 法

- 一 泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

- 一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 頭部、顔面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
- 三 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項 症

- 一 頭部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
- 二 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

(施)第二十五條 準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス
- 二 國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

(施)第二十六條 準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス
- 二 前號ニ掲ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス
- 三 前二號ニ掲ケサル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵卒ニ準ス

(施)第二十七條 教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル
- 二 準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

(施)第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

(施)第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

恩給失格

前項ノ期間満了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做ササルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

宮内職員在職者

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ在職

ノ恩給

再就職改定

スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其

ノ恩給ヲ改定ス

一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ト爲リ退職シタルトキ

三 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癱疾ト爲リ又ハ

其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

再就職改定計算

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ増加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癱疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定

ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一 後ノ傷痍又ハ疾病カ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ基因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ

規定ニ依リ定メタル不具癱疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ヨリ前ノ増加恩給年額ト別表第二

號表甲號中其ノ不具癱疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ増加

恩給法

恩給

改定恩給額決定

宮内官恩給受給者ノ再就職改定

恩給停止

本條ハ教育職員ニハ當分ノ内適用セズ
第九十九條第一項參照

恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニニ因ル増加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル増加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二 後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ基因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ト前ノ増加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ増加恩給ノ年額トス

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條 前三條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

- 一 公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵卒トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行

ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第二號ノ規定ハ増加恩給ニ付之ヲ準用ス

第五十九條 文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮台灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ此ノ限ニ在ラス

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ其ノ俸給又ハ給料ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ納付スヘシ

第一節 恩給金額

第六十條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

- 前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一二相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

恩給法

個人納金

文官學文官ノ普通恩給

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤績在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其勤績在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條 第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十一條 軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ準軍人在職年十一年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付テ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等及其ノ在職年數ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤績在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職當時ノ軍人ノ階等ニ應シ別表第一號表ノ十一年

軍人準軍人ノ普通恩給

ノ額ト十二年ノ額トノ差額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ之ニ加給ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十一年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十一年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額百五十分ノ五十二

相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ

相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園又盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類ス

ル各種學校ノ教育職員トシテノ勤績在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十五年

ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ在職

年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退

教育職員準教育職員ノ普通恩給

職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス
 前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ
 普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス
 第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス
 第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ
 五十二相當スル金額トス

(施)第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ掲クル
 モノヲ謂フ

- 一 師範學校
- 二 高等女學校
- 三 專門學校令ニ依ラサル實業學校(實業補習學校ヲ除ク)
- 四 中學校又ハ前二號ニ掲クル學校ニ準スヘキ學校
- 五 實業補習學校教員養成所
- 六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ掲クルモノニ準スヘキモノ

警察監獄職員ノ
普通恩給

七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ掲クル學校ニ準スヘキモノ

第六十三條 警察監獄職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二
 相當スル金額トシ十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相
 當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十年以上ノモノヲ含ムトキハ其
 ノ勤續在職年中十年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合
 ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普
 通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十
 ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一
 ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

待遇職員ノ普通
恩給

增加恩給額

傷病賜金

文官ノ一時恩給
軍人一時恩給

恩給

三三六

第六十條第三項及第四項並第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十五條 公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癱疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 下士以下軍人公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(施)第三十一條 恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ十款トス

省 略

第六十七條 文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 下士以上ノ軍人在職年十一年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

教育職員ノ一時恩給

警察監獄職員ノ一時恩給

待遇職員ノ一時恩給

遺族ノ意義

扶助料要件及扶助料權者

第二章 遺 族

遺 族

前項ノ一時恩給ノ金額ノ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條 教育職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條 警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條 待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子

夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ在職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

恩給法

三三七

子、夫受給ノ特別要件

扶助料年額

二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ
前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シテ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限り之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

扶助料失格

扶助料停止

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セララル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニアラス

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ

恩給法

所在不明ニヨル
扶助料停止

リ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス
前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由
發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ
所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

扶助料轉給

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該
次順位者ニ轉給ス

扶助料權消滅

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ
伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻
若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三 不具癱疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止
ミタルトキ

兄弟姉妹ノ一時

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ

扶助料

受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癱疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養ス
ル者ナキ場合ニ限り之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額
トス

一時扶助料

第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監
獄職員在職年一年以上十年未満ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ
年數ヲ乘シタル金額トス

下士以上ノ軍人在職年一年以上十一年未満ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料
ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡者ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

附則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

(省 署)

恩給法

施行期日
廢止法令

從前ノ恩給ノ取扱

恩給

第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

從前ノ恩給ノ時効

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

從前恩給ノ殘額給與

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

從前ノ裁定裁決

第八十八條 從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願、又ハ行政訴訟ニ付テハ之

府縣恩給基金

テ本法ニ依ル内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限り本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除ク

本法施行前ノ在職年

恩給法

殖民地加算年

ノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス
前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前
項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付
テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在
勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職ニ在リテハ二年、其ノ他ノ公務員
ニ在リテハ三年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

（施）第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年
ノ計算ニ付之ヲ準用ス

國境警備及理蕃
ノ加算年

第九十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在
勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム
第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

海軍警吏補ノ在
職年通算

第九十三條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查ノ職ニ
在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職
シタルモノト看做ス

朝鮮總督府巡查
補ノ在職年通算

第九十四條 朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スル
モノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之
ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

臺灣總督府巡查
補ノ在職年通算

第九十五條 臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スル
モノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在
職シタルモノト看做ス

大正九年七月以
前ノ休職者ノ俸
給

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休
職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金額タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ
金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

（施）第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ増加スヘキ金額ハ別表第四號
表ノ區分ニ依ル

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタ

ノ溯及

公務傷病推定規定ノ不溯及

教育職員等ノ不溯及、不停止

恩給

三四六

ル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具癱疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條 第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其他ノ教育事務ニ従事スル文官ニ付テハ當分ノ内之ヲ適用セス其ノ退職料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニアラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官以外ノ公務員ノ在職トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第一項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官以外ノ文官トシテ失格原因ナク

シテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

(施)第三十四條 恩給法第九十九條ノ教育事務ニ従事スル文官トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二 文部省官吏

三 教育事務従事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東廳又ハ南洋廳ノ官吏

四 臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ

五 教育事務従事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏

從前規定ノ扶助料

第百條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セララルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

恩給法

三四七

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ
 大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ増額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ俟タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ増額セラレタルモノト看做ス

従前恩給ノ増額

第一百一條 本法施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ増給ス
 (施)第三十六條 恩給法第一百一條ノ規定ニ依ル増額ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ増加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノトナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年

額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

- 二 軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

- 三 増加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等並別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具癱疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ増加恩給ノ年額トス但陸海軍準士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

- 四 第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ増加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス
 執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ増額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤績ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第二百二條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル女

退職者ノ恩給

恩給

官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ刺令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ逡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

(施)第三十七條 恩給法第二百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ増額セル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ増加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第一百一條ノ規定ヲ適用ス

第三百三條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金額タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス
前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金額扶助料ニ付之ヲ準用ス

屯田兵ノ恩給

施行勅令委任

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四百四條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(施)第三十五條 廢官、廢職、廢廳廢校又ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤続ト看做ス

(別表)

第一號表 省略

第二號表

甲	乙	丙	傷病原狀等階等		親任	勅任	勅任待遇	奏任	奏任待遇	奏任	判任	判任待遇	判任	判任待遇	判任	判任待遇
			因	階												
戰闘	又ハ	戰闘	特別項	特別項	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	九〇〇	八三〇	七五〇	七五〇
戰闘	又ハ	戰闘	第一項	第一項	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	九〇〇	八三〇	七五〇	七五〇
戰闘	又ハ	戰闘	第二項	第二項	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	九〇〇	八三〇	七五〇	七五〇

恩給法

恩給

三五二

乙		號	
普通	公務	公務	二準
第一項	第二項	第三項	第四項
一、九三〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇
一、四〇〇	一、一〇〇	九〇〇	七〇〇
九〇〇	八〇〇	六〇〇	五〇〇
八〇〇	七〇〇	五〇〇	四〇〇
七〇〇	六〇〇	四〇〇	三〇〇
六〇〇	五〇〇	三〇〇	二〇〇
五〇〇	四〇〇	二〇〇	一〇〇
四〇〇	三〇〇	一〇〇	〇
三〇〇	二〇〇	〇	〇
二〇〇	一〇〇	〇	〇

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

第三號表 省 略

第四號表 省 略

○恩給給與規則 勅令三六九(六一二、八)

第一章 恩給ノ請求

第一條 普通恩給又ハ増加恩給ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書又ハ増加恩給請求書ヲ退職當時ノ本屬
廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

第二條 前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一、在職中ノ履歷書
 - 二、戶籍抄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ)
- 増加恩給請求書ニハ前項各號ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一、傷病疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類(例ハ現認者ノ現認證書、所屬長ノ事實證明書等)
 - 二、疾狀ノ經過ヲ記載シタル書類
 - 三、請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條 恩給法第五十條第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第一號
恩給給與規則

三五三

三號ニ掲クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ
再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條 一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條 傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ掲クル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員（公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條 恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一、公務員ノ在職中ノ履歷書

二、請求者ノ戶籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲グル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

書ヲ添附スヘシ

策八條 恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一、公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二、公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲クル書類

前條第二項ノ規定ニ前項第二號ニ掲クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務員ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲クル書類並死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條 恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一、前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二、前扶助料權者ノ扶助料證書

三、請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲クル書類及扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條 恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條 恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一、扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書
二、請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條 恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條 恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求

書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十五條 恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一、公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二、公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歴書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十六條 恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一、公務員ノ在職中ノ履歴書
二、請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十七條 恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一、死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二、請求者ノ戸籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條 一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條 經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引續キタル廳ヲ經由スヘシ

第一章 恩 給 ノ 裁 定

第二十二條 經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作り履歷書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條 裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ

裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十四條 權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條 裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條 裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章 恩 給 ノ 支 給

第二十七條 恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條 年金タル恩給ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前文

給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス
年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第二十九條 支給應ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ
知りタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章 異動通知

第三十條 普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セ
ラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條 年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル
トキヲ除ク)又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ
其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條 年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受
クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縁故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條 年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届
出ツヘシ

第三十四條 第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給應トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ

届出ハ支給應ヲ經由スヘシ

第五章 恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條 年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘ
キ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出
ツヘシ

第三十六條 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添へ裁定
官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條 恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ効力
ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シ
タルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十八條 年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添へ其ノ旨ヲ裁
定官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合
ニ於テ裁定官廳ト支給應トカ異ルトキハ支給應ヲ經由スヘシ

恩給給與規則

第六章 具申及裁決

第三十九條 恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ爲スヘシ

第四十條 具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一、具申者ノ氏名、年齢及住所

二、對手者タル行政廳

三、具申ノ趣旨及理由

第四十一條 具申カ内閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取りタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添へ内閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條 内閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條 裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

○恩給法ニ依ル恩給中岡山縣知事ノ管掌ニ係ル待遇職員

教育職員準教育職員恩給給與細則

縣令八(六一三、三)

第一條 恩給請求書類ハ概テ別紙様式(第一號乃至第十四號書式)ニ準シ作成スヘシ

第一條 恩給給與規則第二十六條ノ規定ニ依リ恩給証書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ別紙様式(第十五號書式)ニ準シ再交付申請書ヲ作り左ノ書類ヲ添付シ之ヲ當廳ニ差出スヘシ

一、恩給証書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顛末及亡失後ニ於テ執リタル處置ヲ記載シタル書類並其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ警察官署等ノ証明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ証明ヲ要セス

二、恩給証書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顛末書及毀損シタル恩給証書又ハ裁定通知書

第三條 年金タル恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ別紙様式(第十六號書式)ニ準シ請求書ヲ作成シ本籍地又ハ現住地市區町村長ノ証明ヲ得テ支給期月ノ十日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

第四條 前條ニ依リ証明ヲ願出テタルトキハ市區町村長ハ証明書ヲ檢閲シ恩給法第九條第五十八條第七十六條第七十七條及第八十條ニ抵触セサル者ト認メタルトキハ當該請求書ニ書式ノ如ク証明ヲ爲スヘシ

第五條 一時金タル恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ別紙様式(第十七號書式)ニ準シ請求書ヲ作成シ當廳ニ差出スヘシ

第六條 恩給法施行令第二條第二項ノ規定ニ依リ死亡者ノ遺族又ハ相續人ノ名ヲ以テ未受領恩給ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ請求書ニ戸籍謄本又ハ除籍謄本(死亡シタル受恩給權者トノ死亡當時ニ於ケル身分

岡山縣知事ノ管掌

恩 給
關係ヲ明瞭ニシ得ルモノヲ添付スヘシ
第一號書式

普通恩給請求書

年 月 日〇〇〇(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度証據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名 印

岡山縣知事 氏

名 殿

第二號書式

普通恩給請求書
增加恩給請求書

年 月 日〇〇〇(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度証據書類相添

ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名 印

岡山縣知事 氏

名 殿

請求書式

第三號書式 恩給

三六六

增加恩給請求書

年 月 日〇〇〇(官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷疾(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度証據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岡山縣知事 氏

名印

第四號書式

扶助料請求書

公務員又ハ
普通恩給權者

氏

名

右者 年 月

日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度証據書類相添ヘ請求候也

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岡山縣知事 氏

名印

請求書式

三六七

第五號書式

扶助料請求書

前扶助料權者

氏

名

右者

年

月

日

日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度証據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岡山縣知事 氏

名殿

第六號書式

一時恩給請求書

年 月 日

(官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度証據書類相添

ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岡山縣知事 氏

名殿

請求書式

第七號書式 給

三七〇

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名

氏

名

右者 年 月

日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度証

據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

氏

名印

年 月

岡山縣知事 氏

名殿

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名

氏

名

右者 年 月

日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相

成度証據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏

名印

年 月 日

岡山縣知事 氏

名殿

請求書式

三七一

第九號書式 給

三七二

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者 氏 名

右者犯罪ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書式相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年 月 日

島 名 印

岡山縣知事 氏 名 殿

第十號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者 氏 名

右者 年 月 日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

年 月 日

申請者 氏 名 印

岡山縣知事 氏 名 殿

請求書式

三七三

第十一號書式 給 恩

再審査請求書

年 月

日退職ニ因リ普通恩給及増加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷病(疾病)回復セザ

ルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名 印

岡山縣知事 氏 名 殿

第十二號書式

履 歴 書

退職當時ノ官職名

氏

年 月 日生 名

年 月 日	記 事	官 公 署 名

右ノ通相違無之候也

年 月 日 氏 名 印

備考

- 一、學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス
- 一、官職、任免、轉任、陞等、陞級等ハ順ヲ追ヒ間隙ナキ様ニ詳記スヘシ

請求書式

一、退職事由ヲ明記スヘシ
二、恩給法第十七條ノ規定ニ依リ數個ノ恩給負擔分擔者ヲ有スル公務員トシテ在職セル者ハ其ノ數ニ應ジ作製添付スヘシ

第十三號書式

現 認 証 明 書

公務員ノ官職名

氏

名

右者

年

月

日

日午前(後)時(何)地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ頁

傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名

年

月

日

現 認 者

氏

名 印

備考 本証明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連署スヘシ

第十四號書式

事 實 証 明 書

公務員ノ官職名

氏

名

右者

年

月

日

ヨリ何ニ從事中

年

月

日

(何)ノ狀況ニ於テ(何)ニ

從事シ

月

日頃ヨリ(何)ノ症病アルヲ訴ヘ爾後(何)ノ處置ヲ施シタリ

右 証 明 ス

年

月

日

官 職 名

氏

名 印

請 求 書 式

第十五號書式 恩給

恩給証書(裁定通知書)再交付申請書

- 一、証書番號(通知書番號)
- 一、証書ノ日附(通知書日附)
- 一、恩給金額

右恩給証書(裁定通知書)ヲ亡失(毀損)致候ニ付再交付相成度申請候也

年 月 日

退職當時ノ官職名又ハ
公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

岡山縣知事 氏 名 殿

身

名 印

第十六號書式

教育職員(普通恩給) 增加恩給(金請求書) 待遇職員(扶助料)

請求金額	所屬期間	証書番號	年	額	公務從事ノ狀況	備	考
金何圓何拾錢	自何年何月何日 至何年何月何日	第何號	金何圓				

右請求候也

年 月 日

本籍地
現住所
元官職名

又ハ故何官職何某事婦(其ノ他)氏
氏 名 印
氏 名 印

請求書式